

MUKOGAWA WOMEN'S UNIVERSITY
ANNUAL REPORT
OF
RESEARCH INSTITUTE FOR LINGUISTIC
CULTURAL STUDIES
Vol.23 DEC, 2012

Contents

The factor of gratitude expression proper use

Yuka MATSO

The difference in text expression of dog lovers and cat-lovers

Hideo SATAKE

The communication of librarians serving -The case of serving for little users-

Kaoru SITARA

武庫川女子大学

言語文化研究所年報

第二十三号

二〇一

武庫川女子大学

言語文化研究所年報

第 23 号

2011

武庫川女子大学 言語文化研究所年報 第 23 号

目 次

言語文化研究所活動の概要 1

感謝表現使い分けの要因 松尾 祐加 5

キーワード ありがとう すみません ごめん 若者

愛犬家と愛猫家の表現法－投稿文における語彙と表現－
佐竹 秀雄 31

キーワード 愛犬 愛猫 投稿 語彙 文体

図書館サービスにおけるコミュニケーション
－児童を対象者とした場合－ 設樂 馨 47

キーワード 読書 図書館サービス コミュニケーション

言語文化研究所活動の概要

1. 2011年度の調査研究

(1) マスコミ報道の表現と表記に関する調査研究

この研究の目的は、マスコミ報道で使われていることばを調査することによって、日本語における問題点を探ることにある。マスコミで使われることばは、一面では一般の日本語の姿を映すと同時に、また、一般に対する影響力も大きい。マスコミにおける言語使用の実態を調査研究することによって、日本語の現状を考える基礎データを得ようとするものである。

今年度は、「結婚情報誌」を対象とし、「ウエディング」を修飾することば、共起することばについて調査した。その結果については、LC りぼーと34号で「ウエディングを飾ることば」というタイトルで報告した。

2. 2011年度の刊行物等

(1) 言語文化研究所年報第22号

前年度(2010年度)における研究成果の報告として、以下の論文を掲載して刊行した。

佐竹秀雄：「課題図書にみる教育漢字」

藤原梨恵：「新聞の四コマ漫画における言葉の性差・時代差」

(2) 研究レポート(LC りぼーと) 33号・34号

2011年度に行った研究会、セミナーなどのイベントについての報告と「結婚情報誌」についての調査結果とを報告した。各号のタイトルと内容は次の通り。

第33号：ことばのサロン&言語文化セミナー

研究所では、年に2回イベントを主催している。一つは、参加者が主体となって発言することを目的とした「ことばのサロン」で、もう一つは、講師の講演を中心に行う「言語文化セミナー」である。「ことばのサロン」は、

ことばに一家言をもつ参加者の発言が非常に活発で、研究所にとっても興味深い体験談を聞ける場である。その発言を記録したものである。言語文化セミナーについては、その内容と、参加者を対象に行った漢字に関するアンケート調査の結果について報告している。

第34号：ウエディングを飾ることば

「かつての結婚式と比べて、いまどきの結婚式は、どうも様子が違う」という印象を、実際に「ことば」として確かめるため、結婚情報誌を題材に「ウエディング」を修飾することばと、「ウエディング」と共起することばを調べた。その結果、近ごろは、「あたたかでアットホーム」なウエディングが好まれ、ウエディングは、「楽しむべき人生のイベントの一つ」であることが分かった。

3. 言語文化セミナーの開催

第20回「言語文化セミナー」

2011年11月16日（水）午後2時～4時

講師：阿辻 哲次氏（京都大学大学院教授）

テーマ：「現代日本の漢字文化」

参加者：41名。

阿辻氏は、漢字の特徴として、次のようなことを説明された。

- ・表意文字であること（漢字は一字だけで意味をもっている）。
- ・使用人口、使用面積が多い（中国と日本）。
- ・文化的な遺産が多い。
- ・縦書き、横書きが自由である。
- ・好きな漢字、嫌いな漢字のある場合があり、それに理由が伴っている（たとえばローマ字や平仮名などに好き嫌いがあることは考えにくい）。

また、日本語は、このような漢字のほかにも、平仮名、片仮名、ローマ字を使い分けており、世界の中でも表記が特異であると指摘された。

2010年に告示された改訂常用漢字表や人名漢字表については、研究者と法律家との間には、漢字を扱う態度に大きな違いがあると話された。その例と

して、人名漢字の候補に挙がった「糞」が取り上げられた。法律家の主張は、漢字選定のための調査結果によって、人名漢字表の範囲に入った漢字であるならば、たとえそれがどんな漢字であっても例外を作らずに入れるべきだ、というもので、それに対して、研究者たちの意見は、人名に用いるとは到底考えられない漢字を入れることはおかしい、はずすべきだ、というものである。漢字1字であっても、立場が異なればとらえ方が全く違うという現場のやり取りを披露された（最終的には人名漢字表に入らなかった）。

4. 「ことばのサロン」開催

第3回「ことばのサロン」

2011年7月9日（土）午後1時30分～3時30分

テーマ：「昔の決まり文句」

参加者：24名。

昔から言われている「決まり文句」には、「夜、口笛を吹いてはいけない。へびが来るから／オニが来るから」とか、「霊柩車を見かけたら、親指を隠しなさい」のようなものがある。また、昔は「火遊びをする子は寝小便をする」ということわざで火遊びを戒めたりした。このような「決まり文句」は、ある程度、伝承性があることばだと言えよう。しかし、その使われ方、頻度、使う時の意識などは、昔とまったく同じとは言えないように思える。「決まり文句」には、伝承性があるのかなのかという疑問を出発点とした。

所長の佐竹から「ことばの世代間の断絶は起こりかけているのだろうか。もし、起こっているとすると、どんなところに現れているのだろうか」という問いかけがあった。参加者からは、「決まり文句」に使われている「モノ」がなくなると、その「決まり文句」の意味が分からないのではないか、という意見、また、核家族か、祖父母と同居かの別によっても違うのではないか、という意見も出た。

「決まり文句」は、注意や指示、規制を直接的にするのではなく、間接的に言う婉曲表現である。だからこそ、そのことばを聞いて、“なるほど”と納得できるものや理屈が分かるものが、次の世代へと伝承されていくと考えられ、そうでないものは、消えていってしまうのかもしれない。しかし、こ

ういったことばを楽しむこと、面白がること、ことばで遊ぶこと、そして、知っているということは、私たちの生活における“心の豊かさ”でもあるだろう。その豊かさが、世代間の接着剤がわりとなり、コミュニケーションツールとなれば楽しいに違いない。

5. 「メディアとことば研究会」スカイプ

この研究会は、2003年3月に発足し、年4回の研究会を行っている。そのうちの2回は、関東会場の東洋大学と関西会場の本学とを結んで行っている。

2011年度は、次の4回を開催した。

第33回2011年6月18日（土）（スカイプ）15時～18時30分

第34回2011年9月16日（土）15時～18時

第35回2011年12月17日（スカイプ）15時～18時

第36回2011年2012年3月9日（金）15時～18時

第33回・第35回のスカイプ会場として、当研究所が協力した。会場は次の通りである。

〈関東会場〉東洋大学白山キャンパス 5号館2階 5201教室

〈関西会場〉武庫川女子大学中央キャンパス 言語文化研究所

6. 事務報告

(1) 組織

所 長：佐竹 秀雄（文学部日本語日本文学科教授）

助 手：岸本 千秋（言語文化研究所教務助手）

(2) その他

この年報には、松尾祐加氏の論文を掲載した。これは、武庫川女子大学文学部日本語日本文学科2011年度の卒業論文を一部改稿したものである。感謝表現に対する近年の若者の意識が読み取れる興味深いデータが示されている。

感謝表現使い分けの要因

松 尾 祐 加

1. 研究目的と研究方法

相手に何かをしてもらい、自身が嬉しいと感じたときには「ありがとう」と言う。感謝の気持ちを表現するときは、「ありがとう」というのだと幼少期に教わった。しかし、成長するにつれて相手に何かをしてもらって感謝のことばを言うべき場合に、単純に“ありがたい”と思う以上に、“嬉しいけど、申し訳ない”と感じることが増えてきた。こういう場合、「ありがとう」の代わりに「すみません」などと言うことがある。ときには、どちらがいいのかと迷うこともある。

感謝の表現の場合には「ありがとう」「すみません」以外にも「ごめん」などと言うこともある。どれを使うかは状況や相手といった条件によって変わってくると思われる。本論では、これら感謝のことばがどのような条件によって使い分けられているのかを明らかにしたい。

『大辞林 第2版』（1995、三省堂）では、「ありがとう」「すみません」「ごめん」の語釈として次のように記されている。

・ありがとう

感謝の気持ちを表す言葉。感動詞的にも用いる。「教えてくれてー」「どうもー」〔丁寧な言い方では、下に「ございます」「存じます」を付けて用いる〕

・すみません

相手に謝るとき、礼を言うとき、依頼をするときなどに言う語。しばじは感動詞的に用いられる。すいません。「ご迷惑をおかけしてどうもーでした」」「ご出席いただいてどうもーでした」」「ーが鉛筆をとって下さい」

〔「すまない」の丁寧な言い方〕。

・ ごめん

①免許・許可の尊敬語。「お出入りーになる」「天下ー」「木戸ー」②免官・免職の尊敬語。「お役をーになる」③「ごめんなさい」の略。「さっきはーね」④「ごめんください」の略。「玄関でー、と呼ばわる」⑤拒否・拒絶の気持ちを婉曲に表す語。「戦争はもうーだ」「そんな役回りはーだ」⑥赦免・容赦の尊敬語。「衆会のおん座敷とも存ぜず候。ーあらうずるにて候／謡・吉野静」

「ありがとう」は感謝の場合に使われ、「すみません」は謝罪、感謝と依頼の場合に使われている。そして、「ごめん」はあいさつの語としては謝罪する、あるいは許しを乞う場合に使うものとして位置付けられている。こうして比較してみると、「すみません」が謝罪のほかに感謝や依頼が含まれるなど、幅広い用法があることがわかる。さらに、「ごめん」が辞書では感謝の意味・用法が記述されていないことも注目される。なお、ほとんどの国語辞書は、「ごめん」に感謝の意味・用法を認めていない。

ところで、感謝表現の使い分けに関しては先行研究がある。約20年前に書かれた岡本（1992）である。これでは、短大生女子104名にアンケート調査を行っている。そこでは、被調査者の負担を軽減するために、質問を半分に分割して2種類の調査票を作り、自由記述で回答をさせている。質問内容は「席を空けてもらう」や「待たせる」などの場面を設定して、それぞれの場面でどのような感謝表現を使うかについて、親しい相手の場合と疎遠な相手の2通りの場合を回答させている。

その結果に対する考察として、次のように述べられている。

相手の負担が大きいと感じられる状況ほど謝罪型（「すみません」タイプ）が多用され、感謝型（「ありがとう」タイプ）が少なくなる傾向が非常にはっきりと示された。…（中略）…疎遠な相手に対しては、全般に謝罪型の比率が高まるが、状況間での感謝型、謝罪型の使い分けは

依然としてみられ、…（中略）…相手のコスト（負担度）を配慮した使い分けが行われているものと推測する。

岡本の研究では、相手の負担が高くなるほど、また、相手との関係が疎遠であるほど、感謝型「ありがとう」タイプよりも謝罪型「すみません」タイプが多くなると述べている。そして、感謝型と謝罪型を使い分ける条件として、「相手の負担度」と「相手の親疎」が関わるとしている。

ここで岡本のいう負担度というのは、相手が被ったコスト（またはコストへの配慮）のことを指している。岡本は話し手の負担、話し手の負い目、話し手の気楽さ、相手の気分の良さの諸項目について因子を利用し、負荷量を計測している。

本研究の目的は、前述のように、感謝表現がどのような条件で使い分けられるのかを明らかにすることであるが、それと同時に、この先行研究との比較を含めて考察したいと考えた。つまり、岡本（1992）を参考にしたアンケートを作成し、20年近く経った今、上記の考察から感謝表現に変化があるのか否か、また変化しているのなら、それはどのように移り変わっているのかについても調査しようと考えた。

2. 調査方法の考え方と調査内容

2.1 感謝表現に関わる要因

岡本（1992）は、「相手の親疎」と「相手の負担度」の違いが感謝表現の使い分けに関連していると述べていたが、本研究では「依頼／厚意」の問題を追加して調査しようと考えた。

感謝の表現をする場面を考えてみると、自分が依頼して何かしてもらって感謝のことはを述べる場合と、依頼したわけではなく相手が厚意で何かしてくれたときに感謝のことはを述べる場合がありうる。次に挙げるのはその具体例である。

【自分の依頼に基づく場合】

- 「コーヒーを入れてくれませんか」と頼んで、相手がコーヒーを入れて

くれた。それに対して礼を言う。

- 友人と一緒に帰る途中で、コンビニで買い物をする用事を思い出した。
友人に「少し待っていて」と頼んで待ってもらい、買い物をすませて友人に礼を言う。

【相手の厚意に基づく場合】

- だまって座っていたら、「コーヒーをどうぞ」と言ってコーヒーを出してくれた。それに対して礼を言う。
- 友人と一緒に帰る途中で、コンビニで買い物をする用事を思い出した。
友人に「買い物をするから」と言って別れたつもりでいた。買い物をすませると友人が待っていてくれたときに礼を言う。

アンケートの質問場面に、この「依頼／厚意」による違いが反映されるようにしようと考えた。その違いが、「ありがとう」「すみません」「ごめん」などの感謝表現の使い分けに関係する可能性があると考えたからである。

つまり、本研究では、感謝表現の使い分けには「相手の親疎」「相手の負担度」「依頼／厚意」の3要素が関連するという仮説を立てたのである。そして、これらの3要素の状態がわかるような場面を設定して、どのような感謝表現が使われるのかを調査することにした。

3要素のうち、「相手の親疎」の違いが感謝表現にどのように関わるかを知るためには、似たような場面で、相手が「親しい人の場合」と「親しくない人の場合」とで、感謝表現がどのように異なるかを比べればよい。同様に、「相手の負担度」についても、負担度の「大きい場合」と「小さい場合」とで使われる感謝表現を比較すればよい。「依頼／厚意」についても同様に比較すればよい。

このように考えると、設定すべき場面としては、3要素を組み合わせた、次の8つのパターンができる。

- ① 親しい人に負担の大きいことを依頼した場合
- ② 親しい人に負担の小さいことを依頼した場合
- ③ 親しい人に負担の大きいことを相手の厚意でされた場合
- ④ 親しい人に負担の小さいことを相手の厚意でされた場合

- ⑤ 親しくない人に負担の大きいことを依頼した場合
- ⑥ 親しくない人に負担の小さいことを依頼した場合
- ⑦ 親しくない人に負担の大きいことを相手の厚意でされた場合
- ⑧ 親しくない人に負担の小さいことを相手の厚意でされた場合

この8つのパターンに該当する場面を設定し、それぞれに対してどのような感謝表現を選択するかを調査する。それによって、上記の3要素と感謝表現との関係を明らかにしようと考えたのである。

2.2 調査項目の構成

すでに述べたように、アンケート調査に際しては、上の8つのパターンに対応する場面を設定しなければならない。ところで、上の8パターンは、①から④が親しい人に対する場合であり、それに対して、⑤から⑧は相手が親しくない人になるだけで、①から④に完全に対応している。そこで、調査では、相手が「親しい場合」と「親しくない場合」の2通りを、すべての設定場面で質問することにした。すると、設定場面としては、①から④（⑤から⑧）の4種類になる。

この4種類のそれぞれに2つずつの場面設定をすることにした。設定場面が1つだと結果に偏りが出るかもしれないので、それをなるべく減らすためである。4種類に2つずつの場面で、8問（AからH）を設定した。

これに、同一状況で、依頼か厚意か、負担が大か小かの違いをみる質問3問（IからK）と、さらに、もう一问、予定変更の場面設定の質問（L）を追加した。追加したのは、先行研究の岡本（1992）の調査結果と比較対照する項目を増やすためである。その結果、項目としては、12問で構成することになった。このうち、最初の8パターンのうちの4問と、残りのうちの3問が岡本（1992）と比較対照できる項目である。

以上、12問の設定場面としてとりあげたのは、次のAからLである。（ ）内は、以下の本文中に用いる略称である。また、*を付けた項目は岡本（1992）と比較対照できるものである。

*A）コンサート会場への行き方を、地図を書いて教えてもう（道教え）

- * B) 以前にもらった地図を紛失し、再び同じことを教えてもらう
(再度道教え)
- * C) 電車で、空いている座席をすすめてもらう (席促し)
- D) 電車で、座っていた人から席を譲ってもらう (席譲り)
- E) 学食で、300円貸してもらう (300円)
- F) 教科書代3,000円を貸してもらう (3000円)
- * G) 落した物を拾ってもらう (落とし物拾い)
- H) 落した免許証入りの財布を家まで届けてもらう (落とし物届け)
- * I) 忘れ物を取りに行く間、一緒にいた人が待っていてくれる (待つ a)
- J) 忘れ物を取りに行く間、一緒にいた人に頼んで待っていてもらう
(待つ b)
- * K) 自分のために、急いでいる人に頼んで10分待ってもらう (待つ c)
- * L) 自分の都合に合わせて、旅行の日程を頼んで変更してもらう
(予定変更)

調査票では、これらの12問の設定場面それぞれについて、相手が「親しい人の場合」と「親しくない人の場合」との2通りを回答してもらうので、1人の被調査者には合計24の質問に答えてもらうことになる。以下、親しい人に対する調査項目は「A1、B1、…」とし、親しくない人の場合には「A2、B2、…」のように区別して示す。なお、上の調査項目の具体的なアンケート調査票は最後の「8. 資料」に収めている。

2.3 調査項目における設定場面の意味

調査項目のうち、負担度はA-B、C-D、E-F、G-H、J-Kがそれぞれ小-大の関係になっている。I、Lは対になる質問ではなく、負担度が相対的に大小となるものはない。しかし、IはJと内容的に似ており比較して考えると負担度は小と判断できる。また、Lは相手に旅行の日程変更をお願いすることなので、ほかの質問との比較から負担度は大と判断できる。そこで、分析に際してIは負担度小、Lは負担度大として扱う。

依頼か厚意かという点では、A、B、E、F、J、K、Lは自分の依頼に基づ

いて相手が行動した状況であり、ほかの C、D、G、H、I が相手の厚意によって行動した状況である。

A から L を先に述べた 8 つのパターンに当てはめると、次のように分類される。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ① 親しい人×負担大×依頼 | B 1、F 1、K 1、L 1 |
| ② 親しい人×負担小×依頼 | A 1、E 1、J 1 |
| ③ 親しい人×負担大×相手の厚意 | D 1、H 1 |
| ④ 親しい人×負担小×相手の厚意 | C 1、G 1、I 1 |
| ⑤ 親しくない人×負担大×依頼 | B 2、F 2、K 2、L 2 |
| ⑥ 親しくない人×負担小×依頼 | A 2、E 2、J 2 |
| ⑦ 親しくない人×負担大×相手の厚意 | D 2、H 2 |
| ⑧ 親しくない人×負担小×相手の厚意 | C 2、G 2、I 2 |

I と J の設定場面は同じようにしている。両者の差は「依頼／厚意」が違ふことであり、I は相手の厚意に基づく行動、J は自身の依頼に基づく行動である。I と J を比較することにより、「依頼／厚意」によって感謝表現が変化しているかどうかを検証する。

2.4 選択肢と被調査者

先行研究のアンケートでは自由記述を行っている。しかし、自由記述では被調査者の時間的な負担が大きいため、今回は選択肢を用意した。「ありがとう」「すみません」「ごめん」「その他（自由記述）」の 4 つとし、「ありがとうございます」「すみませんでした」「ごめんなさい」などの表現はそれぞれ「ありがとう」「すみません」「ごめん」に○をつけるよう指示した。原則、回答は 1 つに絞ったが、複数ある場合は「その他（自由記述）」の欄へ書いてもらった。

先行研究の岡本（1992）では「被験者 短大生女子 104 名」とされているので、それに準じ武庫川女子大学の学生に協力を求めた。その結果、計 146 名から回答を得た。内訳としては、非常勤講師の佐竹久仁子先生の協力を得て大学・短大 1 年生と、筆者の知人を介して実施した。

3. 結果

まず、全体の結果を示す。146名の回答について、質問ごとに比率にして示したものが表1である。全体の30%を超えるものを太字にしている。

表1 全体の結果

		ありがとう	すみません	ごめん	その他	負担度	対象	内容	
A	1 親	93.6	－	4.1	2.1	小	依頼	道教え	
	2 疎	48.6	41.1	2.7	7.5				
B	1 親	13.0	6.8	74.7	5.5	大			再度道教え
	2 疎	3.4	80.1	13.0	3.4				
C	1 親	87.0	0.7	8.2	4.1	小	厚意	席促し	
	2 疎	30.1	61.0	2.7	6.2				
D	1 親	82.9	4.8	11.6	0.7	大			席譲り
	2 疎	36.3	57.5	2.7	3.4				
E	1 親	55.5	2.1	40.4	2.1	小	依頼	300円借金	
	2 疎	14.4	67.1	13.7	4.8				
F	1 親	26.7	5.5	63.0	4.8	大			3000円借金
	2 疎	5.5	74.7	15.1	4.8				
G	1 親	96.6	0.7	2.7	－	小	厚意	落とし物拾い	
	2 疎	52.7	45.2	1.4	0.7				
H	1 親	84.2	3.4	9.6	2.7	大			落とし物届け
	2 疎	52.7	40.4	1.4	5.5				
I	1 親	34.2	0.7	56.8	8.2	小	厚意	待つ a	
	2 疎	13.7	69.2	11.0	6.2				
J	1 親	55.5	0.7	40.4	3.4		依頼	待つ b	
	2 疎	19.9	63.7	13.0	3.4				
K	1 親	23.3	4.8	66.4	5.5	大			待つ c
	2 疎	4.8	79.5	11.6	4.1				
L	1 親	18.5	4.8	69.2	7.5	大	依頼	予定変更	
	2 疎	5.5	72.6	15.8	6.2				

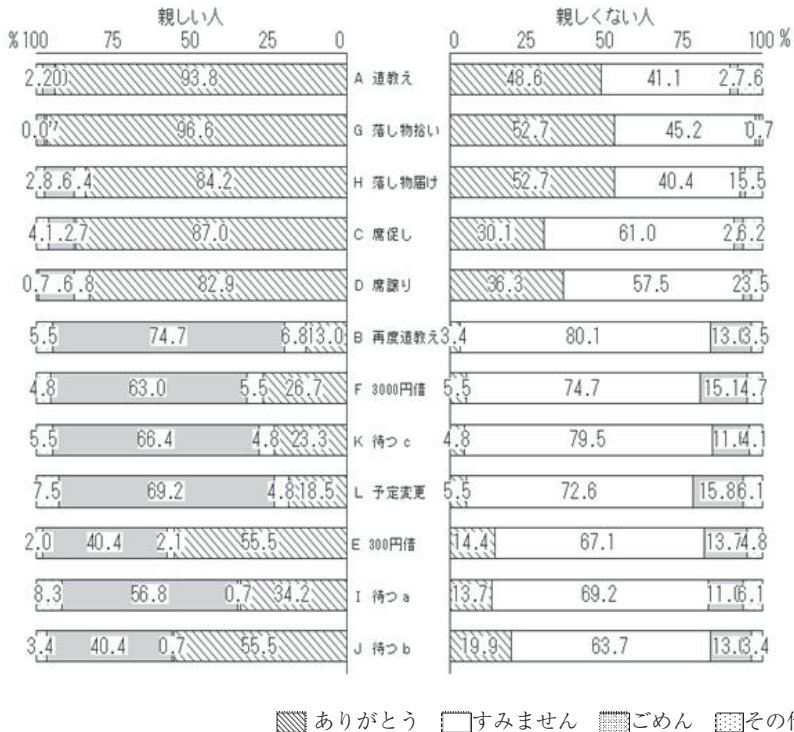
以下、「相手の親疎」「相手の負担度」「依頼／厚意」のそれぞれの観点から、感謝表現にどのような傾向が見られるかを分析する。

3.1 相手の親疎

「相手の親疎」の観点から、データを比較してみる。親疎の対立は A から L のすべての調査項目で見ることができる。

表1の全体のデータを、相手が親しい人の場合と親しくない人の場合とに分けて、それぞれどのような表現がみられるかを帯グラフで示したものが次の図1である。項目 A から L の順序は、結果のパターンが似ているものが近づくように並べ変えている。

図1 相手の親疎別の感謝表現—親しい相手と親しくない相手



親しい人の場合、「ありがとう」と「ごめん」が多い。全12項目のうち、「ありがとう」が多かったのは7項目で、なかでも A、G、H、C、D の5項目では80%を超えている。「ごめん」が多かったのは、B、F、K、L の4項目で、

60%以上あった。E、I、Jは「ありがとう」と「ごめん」の両方が30%を超えている。

親しい人の場合には、A、G、H、C、Dのような、いわば「ありがとう」型とB、F、K、Lのような「ごめん」型、および、E、I、Jのような「ありがとう・ごめん」混用型の3種が認められたことになる。これらに対して、「すみません」は、最大でもBの6.8%で、いずれも10%に満たなかった。

親しくない人の場合は、「すみません」が多い。すべての項目で40%を超えている。A、G、Hでは「ありがとう」が多いが、「すみません」の数値も決してわずかというわけではない。いわば、A、G、Hは「ありがとう・すみません」型であり、残りの9項目は「すみません」型と言えよう。

親疎に関する大きな傾向としては、親しい場合は「ありがとう」、親しくない場合は「すみません」が多いようだが、場面によっては、親しい場合に「ごめん」が使われることがあるし、親しくない場合に「ありがとう」も使われることもあり、決して単純ではなかった。そうしたなかで、B、F、K、Lの4項目では、回答が「親－ごめん」「疎－すみません」という対応が明確であった。

以上から、まずは相手の親疎が感謝のことばに大きく関連していることがわかる。そして、「親－ありがとう・ごめん」「疎－すみません」という大きな対応関係を認めることができそうである。

3.2 相手の負担度

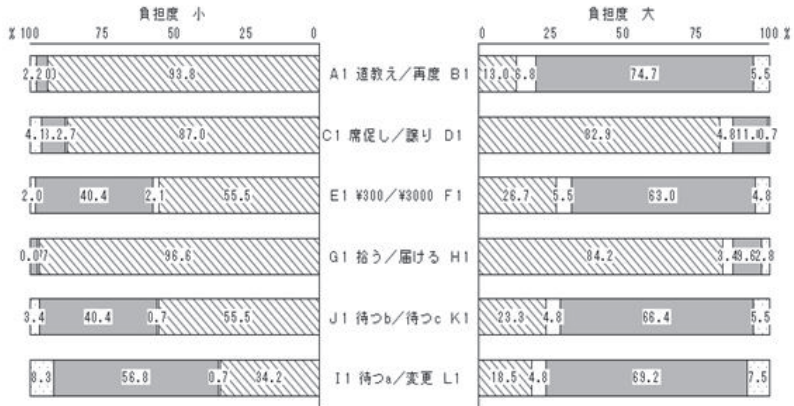
次に相手の負担度の大小によって、感謝表現がどのように変わるかをとり上げる。

負担度の大小によって、どのような感謝表現がみられるかを図示したものが次の図2である。A－B、C－D、E－F、…と負担度が小－大のセットになっているので、比較しやすいように左右に並べている。ただし、I、Lについては小－大のセットになっていない。なお、図の上部には相手が親しい人の場合（A1、C1のように添字が1のもの）、下部に親しくない人の場合（添字が2のもの）と分けて配置している。

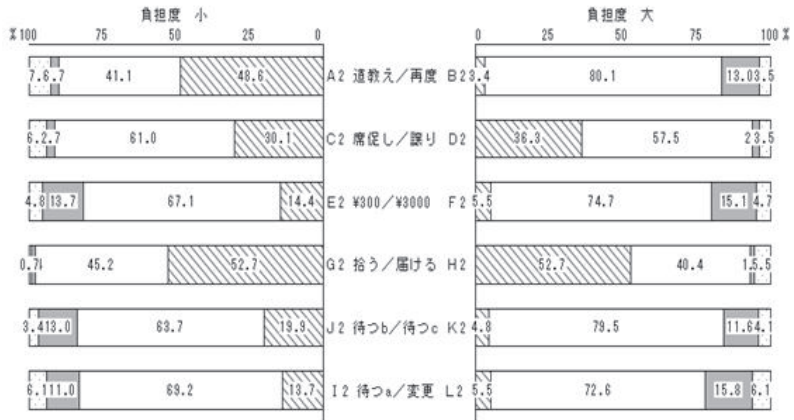
感謝表現使い分けの要因

図2 相手の負担度の違いによる感謝表現

親しい人の場合



親しくない人の場合



ありがとう

 すみません

 ごめん

 その他

負担度の小さい場合は、A1、C1、G1のような「ありがとう」が80%を超える「ありがとう」型、E1、J1、I1のような「ありがとう・ごめん」混用型、A2、C2、G2のような「ありがとう・すみません」混用型、E2、J2、I2のように「すみません」の比率が高い「すみません」型とさまざま

である。

他方、負担度の大きい場合も、B1、F1、K1、L1のような「ごめん」型、D1、H1のような「ありがとう」型、B2、F2、K2、L2のような「すみません」型、D2、H2のように「ありがとう・すみません」混用型と、こちらもさまざまなパターンが認められる。

ここで、相手の親しさの条件が同じで、場面もほぼ似たようなシーンで、負担度の大小が異なる場合に注目する。負担度の大きさによって感謝表現の違いが生じるか否かという点でデータを見てみる。そのために、図2のグラフの左右が対称的になっているかどうかをチェックする。

すると、C1-D1、C2-D2、G1-H1、G2-H2、E2-F2、J2-K2は、いずれも左右対称にかなり近い形になっている。左右対称形ということは、負担度が大きくても小さくても感謝表現のあり方が変わらないということである。

左右対称形に近いもののうち、C-D、G-Hでは、親しい場合（C1-D1、G1-H1）も親しくない場合（C2-D2、G2-H2）も含まれている。C-Dは席を譲ってもらうシーンで、G-Hは落し物を拾って（届けて）もらうシーンである。つまり、これらのシーンでは、親疎によって感謝表現は変わるが、負担度の大小によって感謝表現が影響を受けることはないということである。

また、E2-F2は親しくない人からの借金シーンで、J2-K2は親しくない人に待ってもらうシーンである。これらのシーンでは、親しくない人の場合は、負担度の大きさが感謝表現に影響を与えないということである。逆に言えば、親しい人の場合は、借金シーンや待ってもらうシーンでは、負担度の大きさによって感謝表現が変わるということである。

したがって、左右対称形でない残りのA1-B1、A2-B2、つまり、道を教えるシーンで相手が親しい場合も親しくない場合も、負担度の大小によって感謝表現のありようが変わるということである。

以上から、負担度の大小に関しては、感謝表現に影響を与えるものと与えないものがあることがわかった。また、影響を与える場合、相手が親しくな

い場合よりも親しい場合のほうが影響を与えやすい可能性が見出された。

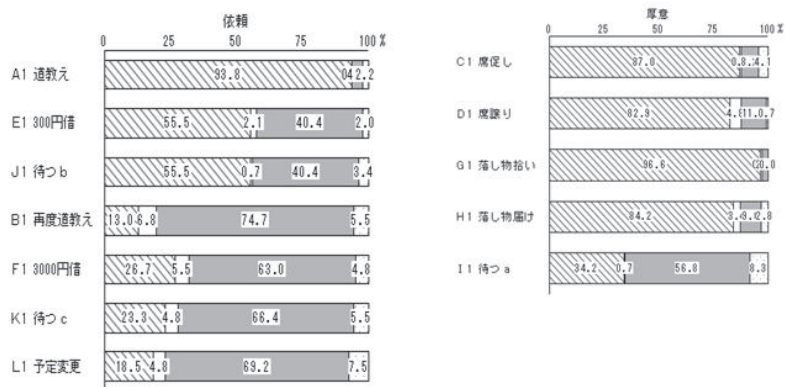
3.3 依頼と厚意

次に依頼か厚意かによって、感謝表現がどのように変わるかを取り上げる。

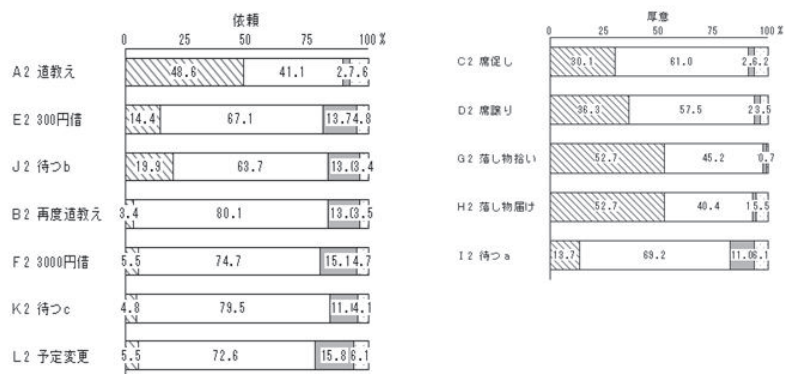
「依頼／厚意」によって、どのような感謝表現がみられるかについて示したものが次の図3である。表示の方法は先の図2と同様で、項目の順序は、結果のパターンが似ているものが近づくように並べ変えている。

図3 依頼／厚意の違いによる感謝表現

親しい人



親しくない人



■ありがとう □すみません ■ごめん ■その他

依頼の場合は、A1のような「ありがとう」型、E1、J1のような「ありがとう・ごめん」混用型、B1、F1、K1、L1のような「ごめん」型、A2の「ありがとう・すみません」混用型、そして、残りの「すみません」型と、多くのタイプが見られた。

厚意の場合は、C1、D1、G1、H1が「ありがとう」型、I1は「ありがとう・ごめん」混用型、C2、D2、G2、H2は「ありがとう・すみません」混用型、I2は「すみません」型で、やはり種々のタイプが見られた。

次に、依頼と厚意によってどの程度感謝表現が異なるか検証してみよう。このために用意した質問がI「忘れ物を取りに行く間、一緒にいた人が待っていてくれる」とJ「忘れ物を取りに行く間、一緒にいた人に頼んで待っていてもらう」である。どちらも相手に待ってもらうシーンで、負担は小であり、Iは厚意、Jは依頼という場面である。

まず、親しい人の場合は次の表2のようになる。表2、3は率ではなく、回答人数で示している。

表2 依頼／厚意 親しい人（待つシーン）

単位：人

	ありがとう	すみません	ごめん	その他	計
J1待つb（依頼）	81	1	59	5	146
I1待つa（厚意）	50	1	83	12	146

依頼・厚意ともに「ありがとう」「ごめん」を使用している。しかしJ1は「ありがとう」が多く、I1は「ごめん」が多い。そこで、この差が偶然の差なのか、意味のある差なのかをカイ二乗検定によって検定した。

表2からわかるように「すみません」の数が1しかない。カイ二乗検定では5未満の数値を直接検定対象にすると、信頼度に問題が生じる可能性が高い。そこで、「ありがとう」「すみません・ごめん」「その他」に分けて計算した。その結果、 $\chi^2=14.22$ となり、有意差が認められた。つまり、依頼した場合は「ありがとう」、厚意に基づく場合は「ごめん」を使用する傾向があると言える。

次に、親しくない人についての結果が次の表3である。

表 3 依頼／厚意 親しくない人（待つシーン）

単位：人

	ありがとう	すみません	ごめん	その他	計
J 2 待つ b（依頼）	29	93	19	5	146
I 2 待つ a（厚意）	20	101	16	9	146

こちらはどちらも「すみません」を多く使っていて、ほとんど差がない。念のために同様に検定を行うと、 $\chi^2=2.91$ となり、やはり有意差は認められなかった。

これらをまとめると、親しくない場合は、依頼でも厚意でも「すみません」だが、親しい場合には、自分から頼んだときは「ありがとう」で、相手が厚意で待ってくれたときは「ごめん」になるということである。

相手が親しい場合のほうが、依頼と厚意とで感謝表現に違いが出るのは、負担度の大小と同じ現象と言える。

3. 4 その他

本研究のアンケートでは、4つの選択肢「ありがとう」「すみません」「ごめん」「その他」を用意した。そのなかの「その他」には自由に記述するように求めたが、「ありがとう」「すみません」「ごめん」以外の感謝表現を記載したものは少なく、詳しく言及するほどの結果は得られなかった。

4. 先行研究との比較

ここで先行研究である岡本（1992）と本研究で得た結果の比較をする。比較する質問内容は A（道教え） B（再度道教え） C（席促し） G（落し物拾い） I（待つ A） K（待つ C） L（予定変更）の 7 項目である。

なお、先行研究では複数回答を許していたため、論文内での表は 100% を超えていた。それを本研究と比較するために、100% 以内におさまるように計算しなおしたものが、表 4 と表 5 である。「1992」と表記したものが岡本氏の先行研究であり、「2011」と表記したものが本研究で得たデータである。項目の順序は、比較しやすいように並べ変えている。

4.1 親しい人の場合

まず、先行研究の岡本（1992）と本研究のデータで、親しい人に対する場合を比較する。整理したデータが表4である。

表4 先行研究との比較－親しい人

1992

		負担度	ありがとう	すみません	ごめん	その他
依頼	A1 道教え	小	84.2	－	3.5	12.3
	B1 再度道教え	大	38.7	－	56.2	5.0
	J1 待つa	小	33.8	－	63.2	3.0
	K1 待つc	大	20.9	－	71.6	7.5
	L1 予定変更	－	12.5	－	83.9	3.6
厚意	C1 席促し	－	76.9	－	17.3	5.8
	G1 落し物拾い	－	87.3	1.6	9.5	1.6

2011

		負担度	ありがとう	すみません	ごめん	その他
依頼	A1 道教え	小	93.8	－	4.1	2.1
	B1 再度道教え	大	13.0	6.8	74.7	5.5
	J1 待つa	小	34.2	0.7	56.8	8.2
	K1 待つc	大	23.3	4.8	66.4	5.5
	L1 予定変更	－	18.5	4.8	69.2	7.5
厚意	C1 席促し	－	87.0	0.7	8.2	4.1
	G1 落し物拾い	－	96.6	0.7	2.7	－

1992年の研究では親しい人に「すみません」を使用することがほとんどなかったが、2011年になると増加の傾向が見られる。また注目したいのは負担度が大きいB1である。比較してみると「ありがとう」が減少、「すみません」とともに「ごめん」が増加している。このことは、約20年の間に、相手の負担度を気にするようになって、謝罪形式の表現が増えてきたと解釈することもできそうである。

両方に共通する点では、まず、感謝の対象が相手の厚意によるときには、昔も今も「ありがとう」を使用することが挙げられる。それに対して、感謝の対象が自身の依頼に基づいたもののときは、「ありがとう」が少なくなっ

て「ごめん」が多くなる。そのとき、相手の負担が大きい場合には、「ごめん」がより多くなる傾向が見てとれる。

4.2 親しくない人の場合

親しくない人の場合について、同様に整理したものが表5である。

表5 先行研究との比較－親しくない人

1992

		負担度	ありがとう	すみません	ごめん	その他
依頼	A 2 道教え	小	75.0	16.6	－	8.3
	B 2 再度道教え	大	32.0	46.7	1.3	20.0
	J 2 待つ a	小	10.7	64.3	14.3	10.7
	K 2 待つ c	大	12.1	47.1	4.6	36.2
厚意	C 2 席促し	－	32.8	59.4	1.6	6.2
	G 2 落し物拾い	－	59.0	39.7	－	1.3

2011

		負担度	ありがとう	すみません	ごめん	その他
依頼	A 2 道教え	小	48.6	41.1	2.7	7.5
	B 2 再度道教え	大	3.4	80.1	13.0	3.4
	J 2 待つ a	小	13.7	69.2	11.0	6.2
	K 2 待つ c	大	4.8	79.5	11.6	4.1
厚意	C 2 席促し	－	30.1	61.0	2.7	6.2
	G 2 落し物拾い	－	52.7	45.2	1.4	0.7

変化が目立つのが A 2、B 2、K 2 の「すみません」の増加である。A 2 では、先の親しい人の場合では「すみません」を使う人が昔も今もいなかった状況が続くのに、親しくない人では「ありがとう」から「すみません」に移行している。B 2 では「ありがとう」が減少し、「すみません」が大幅に増加している。K 2 も「すみません」が大きく増加している。

共通している点は、C 2、G 2 の感謝の対象が相手の厚意によるものの場合である。昔も今も「ありがとう」と「すみません」に分かれており、その分かれ方もあまり変わっていない。

4.3 比較のまとめ

親しい場合も親しくない場合にも大きな変化が見られたのは、Bの再度道教えである。Bは感謝の対象が自身の依頼で、かつ負担度の大きいものである。また、K「急いでいる人に10分待ってもらう」も負担度の大きいことを依頼している。こちらは、親しい人の場合のK1には20年での変化はほとんど見られないが、親しくない人の場合のK2では「すみません」が多くなっている。

ここから、この20年間で、負担度の大きい場合に、若者の感謝表現が変わってきたとみることができそうである。つまり、相手の負担が大きい場合には、感謝の気持ち以上に相手に対して申し訳ないという気持ちが強く働くようになってきたと考えられるのである。

5. 考察（結論）

以上に述べてきたことを整理する。これまでに気づくことができた事実としては、次のことが挙げられる。

- (1) 相手の親疎が感謝の言葉に大きく関連している。
- (2) 「親－ありがとう・ごめん」「疎－すみません」という対応関係が認められる。
- (3) 負担度の大小に関しては、感謝表現に影響を与えるものと与えないものがある。
- (4) 負担度の違いは、相手が親しくない場合よりも親しい場合のほうが影響を与えやすい。
- (5) 依頼と厚意とを比べると、依頼のほうが感謝表現のバリエーションが多い。
- (6) 依頼と厚意の違いは、相手が親しくない場合よりも親しい場合のほうが影響を与えやすい。

また、親疎、負担度の大小、依頼／厚意の3要素を組み合わせた8つのパターンで、それぞれどのような感謝表現のパターンであったかを整理してみる。それを次の表6に示す。

表6 3要素の組み合わせ

	親疎	負担度	依頼／厚意	ケース	主な感謝表現パターン
①	親	大	依頼	B1 F1 K1 L1	ごめん
②	親	小	依頼	E1 J1	ありがとう・ごめん
				A1	ありがとう
③	親	大	厚意	D1 H1	ありがとう
④	親	小	厚意	C1 G1	ありがとう
				I1	ごめん・ありがとう
⑤	疎	大	依頼	B2 F2 K2 L2	すみません
⑥	疎	小	依頼	E2 J2	すみません
				A2	ありがとう・すみません
⑦	疎	大	厚意	D2 H2	ありがとう・すみません
⑧	疎	小	厚意	C2 G2	ありがとう・すみません
				I2	すみません

これを見ると、次のことが言えよう。

「ありがとう」はさまざまな場面で使用されているのに対して、「ごめん」は親しい人の場合に、「すみません」は親しくない人の場合に使用されている。

特に、負担度が大きくて依頼の場合には、「ありがとう」が使われにくい。そのとき、親しい場合は「ごめん」、親しくない場合は「すみません」となる。

感謝表現には親疎の要素が大きく関わっていることがわかった。相手が親しい人の場合には、多くは「ありがとう」だが、一部に「ごめん」が使われる。借金のシーンや待つシーンでは「ごめん」が使われていた。これらのシーンには、お金と時間が関わっている。本研究の被調査者は大学・短大1年生である。大学生になると高校生のときとは違い、自身で時間の管理を行い、アルバイトをする学生が増える。大学生は、今までにない自由なお金や時間を得るため、お金と時間は重要なものと考えられる可能性が高い。それゆえに、相手にお金、時間を使わせることには非常に気を遣う。その結果、お金と時間に関わる場合には「ありがとう」ではなく、気遣いを示す「ごめん」を使

用していると考えられる。つまり、「ごめん」は「ありがとう」以上に気遣いを示す表現だということである。

一方、親しくない人には、⑤から⑧の4項目すべてに「すみません」があることから、「すみません」を多用する傾向がある。親しくない人、つまり気遣いの必要な人に「すみません」を使うことは、「ありがとう」よりも「すみません」のほうが、より丁寧な表現と意識されているととらえることができそうである。

また、親疎にかかわらず言えることがある。負担度が大きいことを依頼した場合には、「ありがとう」が使われにくいということだ。負担度が大きく依頼のシーンである「再度道教え」「3000円借金」「待つC（急いでいる人に10分待ってもらう）」では、親しい人の場合に「ごめん」になり、親しくない人の場合に「すみません」といった謝罪型になるのである。

これも上記の考え方と関連させて考えることができる。つまり、負担度が大きく、しかもこちらから依頼するシーンというのは、話し手にとって気遣いが必要となる場面である。したがって、より丁寧で気遣いのある表現を使おうとして、「ありがとう」以上の表現が求められる。その結果、親しい人の場合は「ごめん」になり、親しくない人の場合には「すみません」になるのである。

要するに、感謝表現においては、相手に対して気遣いが必要であったり、内容の上で、より強い表現が必要だったりするシーンでは、「ありがとう」以上の表現をしようとする傾向があり、それが親しい人の場合は「ごめん」になり、親しくない人の場合には「すみません」になると考えられるのである。

もう一点、先行研究の岡本（1992）と比較したことからは、次のことが考えられる。

この20年間で、「再度道教え」や「待つC（急いでいる人に10分待ってもらう）」シーンで「すみません」を使う人が増加していた。この変化については、「4.3 比較のまとめ」で述べたように、負担度の大きい事柄を相手に依頼する際に、気遣いをより強く表そうという意識が敏感に働くようになった。

ていることを表している。

このような「すみません」を多用することについては、様々な意見がある。マナーについて書かれた書物には、多くのアドバイスが載っている。たとえば、次に掲げるように、「すみません」を使うとことを良しとしないものも存在する。

- 梶原（2005）「感謝するなら「すみません」でなく「ありがとうございます」です」
- 浦野（2006）「「すみません」はさまざまな場面で多用できる言葉ゆえに、「間に合わせの言葉」と感じる人も少なくありません。…（中略）…「すみません」ですませるのではなく、それぞれの状況にふさわしい決まり文句をしっかりと使いこなせるようになりましょう」

しかしながら、本研究のアンケート結果で「すみません」が20年前よりも多く使われていた。このことには、大きな意味があると考ええる。三宅（2011）には、「本来は謝罪表現として使われていた語句が感謝の意味でも使われるようになる現象は、中世にまでさかのぼってみることができる」とある。「すみません」のような謝罪表現が感謝表現として使われることには長い歴史があるのだ。それだけの歴史を背後にもつ、感謝表現としての「すみません」が、現代の若者たちの意識の中で強くよみがえってきたと考えられないか。

すでに述べてきたように、「すみません」には相手を気遣う意味があり、それは当然、人間関係を円滑にするという重要な役割を果たす。昔に比べて人間関係が希薄になっていると言われている近年、若者たちにとって、周囲の人間への気遣いは決して欠かすことのできないものになっている。表現力が必ずしも十分でない若者にとって、少しのゆきちがいが誤解を生み、人間関係を損ねる恐れがある。そのような人間関係を損ねることへの不安は大きい。まかり間違えば、周囲から孤立するおそれがあるからだ。したがって、特に、親しくない相手に対して、相手に負担を与えるような行為については、強い感謝表現を捧げなければならない。そのとき、ごく普通の感謝表現では

不十分だと感じる。そこに登場したのが、感謝に通じる謝罪表現である。つまり、歴史の流れの中で潜在的に感謝表現になりうるものが、若者たちにとって他人を気遣う便利な感謝表現として復活したと考えられるのである。

6. 参考文献

- 浦野啓子（2007）『問題だ！そのバイト語』東洋経済新報社
- 岡本真一郎（1991）「感謝表現の使い分けに関与する要因」
『愛知学院大学人間文化研究所紀要』 6号
- 岡本真一郎（1992）「感謝表現の使い分けに関与する要因(2)―ありがとうタイプとすみませんタイプはどのように使い分けられるか―」
『愛知学院大学文学部紀要』 22号
- 梶原しげる（2005）『そんな言い方ないだろう』新潮社
- 幸運社（2006）『女のマナー常識555』PHP 文庫
- 佐竹秀雄（1995）「若者ことばとレトリック」『日本語学』 14-12、明治書院
- 佐竹秀雄・西尾玲見（2005）『敬語の教科書』ベレ出版
- 鈴木孝夫（2007）『教養としての言語学』岩波書店
- 土居健郎（1971）『「甘え」の構造』弘文堂
- 三宅和子（2011）『日本語の対人関係把握と配慮言語行動』ひつじ書房

資料－アンケート調査票

アンケートのお願い

卒業論文で、「お礼のことば」について調べています。次のような場合、あなたはお礼のことばをどう伝えますか。場面を想像してひとつに○をつけてください。

ありがとうございます／ございました」の場合は「a ありがとう」、
「すみませんでした」の場合は「b すみません」、
「ごめんなさい」の場合は「c ごめん」に○をつけてください。

- A) 今度、コンサートに行くことになりましたが、あなたは会場への行き方を知りません。A さんに尋ねると知っているようなので、地図を書き、道を教えてもらいました。

A さんが親しい相手のとき――→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき――→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

- B) 以前 A さんに道を聞いた際に貰った地図を紛失してしまいました。あなたは再び A さんに同じことを教えてもらいました。

A さんが親しい相手のとき――→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき――→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

- C) 電車で一つだけ空いている席があり、座ろうか迷っていました。近くに立っていた A さんが「座ってね」と促してくれました。

A さんが親しい相手のとき――→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき――→ a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

D) あなたは足を骨折してギブスをしています。電車にりましたが、席は空いていませんでした。近くにいた A さんが「ここ、どうぞ」と席を譲ってくれました。

A さんが親しい相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

E) 学食で A さんに昼食代300円を貸してもらいました。

A さんが親しい相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

F) 教科書を買わなければならないので、A さんに教科書代3000円を貸してもらいました。

A さんが親しい相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

G) 落とした物を拾おうとしたら、A さんが先に拾ってくれました。

A さんが親しい相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき → a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

- H) 財布を失くしてしまいました。たまたまあなたの財布を拾った A さんが、財布の中の免許証の住所をもとに、家まで届けてくれました。中身も落としたときのままでした。

A さんが親しい相手のとき————→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき——→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

- I) A さんと一緒に帰ろうとしたときに忘れ物に気づきました。A さんにも予定がありそうなので、先に帰ってくれるように言ったのですが、取りに戻る間待っていてくれました。

A さんが親しい相手のとき————→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき——→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

- J) A さんと一緒に帰ろうとしたときに忘れ物に気づきました。A さんにも予定がありそうでしたが、話したいこともあったので「少し待っていてほしい」と頼むと快く承諾してくれました。

A さんが親しい相手のとき————→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき——→ a ありがとう b すみません
c ごめん d その他 ()

- K) A さんは今からビルに行くところで、あなたもそのビルに用事があります。A さんはかなり急いでいるようですが、あなたは A さんと一緒に行ってもらおうとありがたいのです。A さんに無理を言って10分ほど待ってもらいました。

A さんが親しい相手のとき————→ a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき→ a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

L) A さんと一緒に旅行に行く計画をしていましたが、あなたの都合で一度決めた日程が無理になってしまいました。A さんは前の日程のほうがいいようです。あなたが理由を話して日程の変更を頼むと、A さんはその無理を引き受けてくれました。

A さんが親しい相手のとき→ a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

A さんがあまり親しくない相手のとき→ a ありがとう b すみません

c ごめん d その他 ()

以上です、ご協力ありがとうございました。

愛犬家と愛猫家の表現法

—投稿文における語彙と表現—

佐 竹 秀 雄

1 はじめに

世の中にペットを飼っている人は少なくない。中でも、イヌとネコは2大ペットと言っても間違いのないほど、多くの人が飼っている。イヌを飼うかネコを飼うかは、もちろん家庭の事情もあろうが、飼い主の好みが当然反映されていることと推測される。この推測の延長として、俗に言われるのが、愛犬家と愛猫家では性格の違いがあるということである。例えば、愛犬家については、イヌに命令することが多いことから、自分の思い通りにすることを好む性格で、愛猫家は、逆に、わがままなネコと付き合うことから、従属的な性格であるなど、まことしやかな説が流布したりしている。

それぞれの性格が具体的にどのように異なるかはともかく、愛犬家と愛猫家とで、性格になんらかの点で違いはあっても不思議ではない。飼い主の元々の性格が異なるだけではなく、イヌとネコと暮らしている結果、ものの見方や考え方が変わることも十分にありうる。その結果、愛犬家と愛猫家がペットについて語るときに、何らかの点で異なるところが生じることもあると思われる。

そこで、愛犬家と愛猫家の違いが、文章表現という観点から認められるのかどうか、認められるとすればどういうところなのか、また、なぜそのような違いが生じるのかを考察しようというのが、この論のねらいである。ペットという存在が、どれほどまでに人間に影響を及ぼすのか。また、それは、人間の心のありようとかかわりの強い文章表現の面に、顕在してくるものなのかどうかを見てみたいのである。言語研究の立場から言うならば、表現対象に向き合う態度の違いが、語彙や表現においてどのような違いを生じるのかを明らかにしようとすることになる。

2 調査方法

愛犬家、愛猫家向けの雑誌として、『いぬのきもち』と『ねこのきもち』がある。どちらも（株）ベネッセ・コーポレーション発行の月刊雑誌である。イヌ、ネコを飼い、育てる上でのさまざまな情報を掲載している。その雑誌のそれぞれに、愛犬家や愛猫家である読者が投稿するコーナーが設けられている。「いぬのきもち自由広場」「ねこのきもち自由広場」と名付けられていて、毎月ほぼ10人以上が、投稿写真を添えて飼いイヌ、飼いネコについて語っているのである。そのほとんどすべては、単純に言えば、ペットの自慢話である。

次に、それぞれの例文を示しておく。

『いぬのきもち』の例文

（略）子犬のころはつぶらな瞳とふわふわとした毛並みで、おとなしそうな雰囲気なのにおてんば犬でした。成長するにつれてだんだんと子犬ならではのイタズラもなくなり、凛としたおとなしい成犬になりました。散歩で会う人にはよく「かわいいですね！」などと声をかけていただくことも多く、陽菜もうれしそうに愛きょうを振りまいています。（略）

【4月号】

『ねこのきもち』の例文

庭の塀の上に寝そべり、くつろいでいた愛猫はな。庭に出たついでによく見てみると、はなは左前足を小さな穴に突っ込んでいました。（略）気になってしばらく様子をうかがっていると、飽きたのか、家の中に戻ってしまいました。はなが去ったあと、こっそり穴を覗いてみたところ、中には何もありませんでした。（略）一体何をしていたのか不思議です。

【8月号】

このコーナーの文章を入力し、そこに使われている語彙を通して、文章の違いがあるかどうか、あれば、それはどのような違いと認められるかを分析する。

調査対象としたのは、両雑誌とも2009年4月号～12月号の9冊ずつである。投稿の文章を全文入力して、語彙調査を行った。調査単位は国立国語研究所の長単位を採用した。採取したデータの概要を次に表1として示す。なお、延べ語数と異なり語数は自立語だけである。

表1 データの概要

	『いぬのきもち』	『ねこの気持ち』
投 稿 数	95件	122件
総 文 数	466文	637文
延 べ 語 数	4,441語	5,440語
異 な り 語 数	1,340語	1,836語

3 結果

3.1 度数順語彙表

度数順語彙表（1パーミル以上の語）は資料に掲げるが、そのデータを利用していくつかのことを述べる。

3.1.1 共通して出現頻度の高い語彙

まず、「いぬのきもち自由広場」（以下、《いぬ》と記す）と「ねこのきもち自由広場」（以下、《ねこ》と記す）の両方に出現した語彙から見てみる。両者に共通して出現した語彙は496語あった。そのうち、それぞれの出現頻度2.0%以上のものを抽出すると44語であった。この44語からペット雑誌のキーワードになりうるものを抽出するために、次のように2種類に分けた。

・他の語彙調査でも出現頻度が高くなるとされる語彙

いる なる する くる こと しまう とき その
 日 中 入る ある この みる ない そんな
 今 言う 頃 できる いく ところ 思う 見る

・ペット雑誌の投稿であることが出現頻度を高くしたと思われる語彙

遊ぶ 寝る 食べる 居る くれる 顔 目 体
 様子 元気 大好き 可愛い 一緒 私 わが家 家

とても いつも 作る 乗せる

これまでの経験による主観的な判定ではあるが、分類の後者に掲げた語彙によってペット雑誌の投稿のイメージはとらえられよう。「遊ぶ・寝る・食べる」という語からは、飼い主がペットのどのような動作を見ているかが推測できる。「顔・目・体・様子・元気」という語からは、飼い主が語りたいペットの姿とようすが感じられる。「大好き・可愛い」には飼い主の感情が、そして、「私・わが家・一緒」には、飼い主がペットについて語るときのスタンスが表れている。

3.1.2 両者の出現頻度に差がみられる語彙

次に、《いぬ》と《ねこ》との違いに着目する。

まず、《いぬ》に多くて《ねこ》に少ない語を見てみよう。《いぬ》の出現比率が《ねこ》の出現比率よりも2%以上多くて、《ねこ》の出現比率が2%未満のものを抽出した。《ねこ》の出現比率が2%未満という条件を付けたのは、《いぬ》と《ねこ》の出現比率に差はある程度認められるが、《ねこ》の出現比率もそれなりに大きいという語を除くためである。すると、次の25語が得られた。

犬	愛犬	子犬	成犬	2頭	ドッグラン
チワワ	トイ・プードル		ミニチュア・ダックスフンド		
毛	色	名前	ミックス	家族	みんな
表情	楽しそう	仲よく	シャンプー	おもちゃ	とつても
まるで	ともに	連れる	行く		

上の2行の語は、イヌの話なら出てきて当然の語であるが、アミ掛けをした下の3行の語はネコの話でも出てきて不思議のない語である。

他方、逆に《ねこ》に多くて《いぬ》に少ない語を見る。同様の手順で求めると、次の18語であった。

猫	愛猫	子猫	2匹	スコティッシュフォールド		
夫	自分	写真	部屋	うち	フード	もの
上	前	くつろぐ	置く	やる	出る	

上の1行の語は、ネコならではの語であるが、下の2段の語に関してはイヌでも出てきてよさそうな語である。

そこで、上の二つの結果でアミ掛けをして示した語、すなわち「《いぬ》に多いのにイヌの話に限定されなくてもよい語」と、「《ねこ》に多いのにネコの話に限定されなくてもよい語」とを対比して見てみよう。それらの語を、主にペットにかかわる語、主に人間にかかわる語などといった観点から分類したものが、次の表2である。

表2 《いぬ》《ねこ》における多い語の比較

	《いぬ》	《ねこ》
ペットについて	毛・色・名前・ミックス 表情・楽しそう・仲よく	くつろぐ
登場する人間	家族・みんな	夫・自分
人間の行為関連	シャンプー・おもちゃ・連れる	写真・フード・置く・やる
場所		うち・部屋・上・前
表現	ととても・まるで・ともに	
その他	行く	もの・出る

表2を見ると、まずペットについては、《いぬ》では「毛・色・名前・ミックス」などの見た目、属性や、「表情・楽しそう・仲よく」といったようすについての語彙が多いが、《ねこ》には「くつろぐ」しかない。ペットがどのような姿、ようすであるのかについての記述は愛犬家のほうが多いということである。

次に、登場する人間は、《いぬ》が家族単位であるのに、《ねこ》は夫婦が単位であるかのようなのである。また、人間の行為については、《いぬ》では「シャンプーをしておもちゃで遊び、イヌを連れていく」という、イヌと直接触れることを連想させる語であるが、《ねこ》は「写真をとり、キャットフードを与え、何かをやるあるいは置く」という、直接ネコに触れるというよりネコと一定の距離がある。

さらに、《いぬ》では「ととても・まるで・ともに」という表現法にかかわる語彙があるが、《ねこ》にはない。イヌに関して語るときには強調や比喻

表現が多く使われているのであろう。他方、場所にかかわる語彙は《ねこ》にはあるが、《いぬ》にはない。これは、一般に多くのネコが気ままにさまざまな場所に移動する性質をもつことから、ネコがどこにいるかということが語る内容になっているということであろう。

以上のことから次のようなことが推察できるだろう。愛犬家は、イヌの姿やようす、あるいは家族全体でイヌと触れ合うことを熱く語りたがる。それに対して、愛猫家は、個人または夫婦で、ネコがどこで、どうして（くつろいで）いるかを、一定の距離を置いて観察したがることが多い。ここに、愛猫家と愛犬家が、ペットについて語るときの内容、スタンスの違いが見てとれるといえよう。

3.2 品詞別比率

次に、品詞比率を比較する。《いぬ》、《ねこ》それぞれの出現語彙の品詞別の度数と比率を示したものが次の表3である。

表3 品詞別の出現度数（比率）（ ）内の単位は%

	《いぬ》	《ねこ》
名詞	2,126 (47.9)	2,614 (48.1)
動詞	1,540 (34.7)	1,959 (36.0)
形容詞	165 (3.7)	191 (3.5)
形容動詞	148 (3.3)	154 (2.8)
副詞	336 (7.6)	340 (6.3)
連体詞	99 (2.2)	117 (2.2)
その他	27 (0.6)	55 (1.0)
計	4,441	5,440

両者、特に大きな違いはない。副詞と形容動詞の比率が、《いぬ》の方が《ねこ》よりも少し高いぐらいである。

ところで、樺島忠夫による文体の数量的分析法の指標に MVR がある。文章の内容が、ようすやありさまを述べるものか、動きを述べるものかを数量的に示す値である。多くありさまを示す性質をもつ「形容詞・形容動詞・副

詞・連体詞」の総数と、動きを示す性質の動詞の数との比によって求める。

$$(\text{形容詞} \cdot \text{形容動詞} \cdot \text{副詞} \cdot \text{連体詞の総数}) / (\text{動詞の数}) \times 100$$

で定義され、値が大きければありさま・ようすが描写されていて、値が小さければ動きが描写されていることを示す。

この MVR を《いぬ》、《ねこ》それぞれについて求めたところ、

《いぬ》：48.57

《ねこ》：40.93

であった。格別に大きな差ではないが、比較すれば《いぬ》の記述はありさま・ようすが多く、《ねこ》の記述は動きが多いということになる。このことは、前述の、愛犬家は、イヌの姿やようすを熱く語り、愛猫家は、ネコがどこでどうするかを観察したがることが多い、ということと符合する。

3.3 語種別

次に、語種別比率を比較する。《いぬ》、《ねこ》それぞれの出現語彙の語種の度数と比率を示したものが次の表4である。その他は固有名詞で、その多くはイヌの名前、ネコの名前である。

表4 語種別の出現度数（比率）（ ）内の単位は%

	《いぬ》	《ねこ》
和語	2,994 (67.4)	3,834 (70.5)
漢語	636 (14.3)	864 (15.9)
外来語	307 (6.9)	235 (4.3)
混種語	238 (5.4)	259 (4.7)
その他	266 (6.0)	248 (4.6)
計	4,441	5,440

両者に大きな違いはないが、外来語と混種語が《いぬ》に多く、和語と漢語が《ねこ》に多いという程度である。

この一つの原因は、《いぬ》には「チワワ（16例）、トイ・プードル（15例）、ミニチュア・ダックスフンド（15例）」などイヌの種類名が多く登場するのだが、それが外来語であるためと考えられる。正確な数字を挙げると、24種

類、109語を数える（外来語以外では「柴」が4例あった）。それに対して、《ねこ》でのネコの種類名は「スコティッシュフォールド（14例）」が多かっただけで、全体では10種で延べ30語にすぎなかった（外来語以外は「ノラ猫」3例と「シャム猫」1例）。

3.4 その他

最後に注目される事実について言及しておく。それは、すでに触れた「登場する人間」の違いである。《いぬ》では「家族、みんな」が多くて、《ねこ》では「夫、自分」が多かった。このうち、「夫」は《いぬ》では出現しなかった。その代わり《いぬ》では「主人」が4例登場し、それぞれ異なる文章においてであった。なお、《ねこ》における「夫」の16例は、8種類の文章に出現していた。

この投稿文章は、《いぬ》、《ねこ》ともにペンネームの使用が許可されているので、男女の内訳は確定できない。しかし、少なくとも、女性が書いた文章の中では、自分の夫のことを、《いぬ》では「主人」と表現した女性はいたが、「夫」と表現した人はいなかったし、《ねこ》では「夫」と表現した女性はいたが、「主人」と表現した人はいなかったのは事実である。

この事実は、愛犬家と愛猫家の家庭や夫婦のあり方とかかわりがあるのだろうか。もちろん、用例数が多くないので、これが愛犬家、愛猫家全体に通じるとは断言できないのであるが。

4 おわりに

以上からは、愛犬家と愛猫家では、同じペット自慢の文章を書くにしても、書き方に根本的な違いがあると考えられる。

まず、どういうところを描くかといえば、愛犬家は、イヌの外見的情報を重視していた。イヌが何という犬種なのか、どのような姿、ようすをしているのかを取り上げた。そして、そういうイヌと触れ合っている家族のことを述べていた。他方、愛猫家は、どういう種類のネコであるかは比較的気にしない。どのような姿、ようすであるかよりも、どこで、何をしているかを

取り上げて述べていた。このことはMVRの差からも見てとれた。MVRの値のより大きい愛犬家の文章のほうがようす、ありさまに着目し、愛猫家は動きのほうに着目していたと言えるからである。つまり、飼い主の視線は、イヌー外見、ネコー動きという方向に向いていたのである。

イヌー外見、ネコー動きという関係は、イヌの「静」に対してネコの「動」という対立が認められるということもできよう。これは、イヌとネコに対して一般の人々が抱くイメージとは逆である。ネコは一日のほとんどを寝て過ごし、ほとんど動きがない。それに対して、イヌは運動や散歩を好むし、飼い主の命令通りに動きまわる。

一見、逆に思えるが、考えてみれば当然のことであろう。「静」のネコだからこそ、飼い主にとってはその動きが気になる。飼いネコと聞いたときに人々が浮かべるイメージは、だれでも似たりよったりのものだろう。思い浮かぶのは、小さくてじっとしているネコである。しかし、そのネコが、人々の想像を超えた動作、かわいらしい仕草やおもしろい動作をするとなると、飼い主は当然自慢したくなる。他方、イヌの場合はどうか。イヌを飼っていると聞かされると、その犬種は何かと聞きたくなる。イヌは小型犬から大型犬まで大きさはさまざまだし、色や模様もさまざまで、飼いイヌというだけでは想像できない。逆に、イヌの話をする側からすると、どんなカッコイイイヌを飼っているかが自慢になる。

だから、愛犬家は自分のイヌは、どのような姿かたちをしているのかを中心に述べ、愛猫家は自分が飼っているネコが、どんなことをするのかに注目して述べようとする。愛犬家にとって、イヌは見た目が大事な要素となり、愛猫家にとって、ネコはその外見よりも行動が重要な意味をもつ。

最初に述べたように、俗に、愛犬家は、命令することが多いから自分の思い通りにすることを好む性格で、愛猫家は、わがままなネコと付き合うから従属的な性格であるという説がある。もし、ペットとのかかわり方が人間の性格と関連することが真実ならば、今回の結果から次のようなことが言える。つまり、愛犬家はイヌの外見・ようすに気を配るのであるから、実生活においても自分や他人の容姿を重視するタイプで、愛猫家は外見よりもネコの動

作を気にしているので、姿、形よりも振る舞いのありようを問題にするタイプということになる。

5. 度数順語彙表

(比率の単位はパーミル)

イヌ					ネコ				
順位	語	品詞	度数	比率	順位	語	品詞	度数	比率
1	いる	動〔補〕	222	50.0	1	いる	動〔補〕	261	48.0
2	する	動	109	24.5	2	なる	動	96	17.6
3	なる	動	77	17.3	3	する	動	84	15.4
4	こと	名	67	15.1	4	私	名	60	11.0
5	遊ぶ	動	50	11.3	5	猫	名	55	10.1
6	とき	名	46	10.4	6	くる	動〔補〕	52	9.6
7	犬	名	42	9.5	7	こと	名	48	8.8
8	愛犬	名	40	9.0	8	見る	動	44	8.1
9	見る	動	37	8.3	9	しまう	動〔補〕	41	7.5
9	わが家	名	37	8.3	10	とき	名	39	7.2
11	いつも	副	36	8.1	11	その	連	37	6.8
12	2頭	名	33	7.4	12	日	名	34	6.3
13	そんな	連	32	7.2	13	思う	動	33	6.1
14	思う	動	31	7.0	13	中	名	33	6.1
14	とても	副	31	7.0	15	愛猫	名	32	5.9
16	ある	動	30	6.8	15	入る	動	32	5.9
16	くれる	動〔補〕	30	6.8	17	様子	名	30	5.5
16	子犬	名	30	6.8	18	ある	動	29	5.3
19	一緒	名	27	6.1	19	うち	名	28	5.1
20	今	名	25	5.6	19	上	名	28	5.1
20	毛	名	25	5.6	21	この	連	27	5.0
20	頃	名	25	5.6	22	みる	動〔補〕	25	4.6

イヌ					ネコ				
順位	語	品詞	度数	比率	順位	語	品詞	度数	比率
23	かわいい	形	24	5.4	23	遊ぶ	動	24	4.4
23	とっても	副	24	5.4	23	いる	動	24	4.4
23	中	名	24	5.4	23	寝る	動	24	4.4
23	みる	動〔補〕	24	5.4	26	写真	名	22	4.0
27	くる	動〔補〕	23	5.2	26	ない	形	22	4.0
27	作る	動	23	5.2	28	とても	副	21	3.9
29	家族	名	22	5.0	29	かわいい	形	20	3.7
30	いく	動〔補〕	20	4.5	30	そんな	連	19	3.5
30	大好き	形動	20	4.5	30	やる	動	19	3.5
30	様子	名	20	4.5	32	今	名	18	3.3
30	私	名	20	4.5	32	夫	名	18	3.3
34	表情	名	19	4.3	32	前	名	18	3.3
35	この	連	18	4.1	32	わが家	名	18	3.3
35	その	連	18	4.1	36	ある	連	17	3.1
37	しまう	動〔補〕	17	3.8	36	言う	動	17	3.1
37	楽しそう	形動	17	3.8	36	置く	動	17	3.1
37	寝る	動	17	3.8	36	くれる	動〔補〕	17	3.1
37	日	名	17	3.8	36	頃	名	17	3.1
37	みんな	名	17	3.8	36	食べる	動	17	3.1
42	言う	動	16	3.6	42	気	名	16	2.9
42	いる	動	16	3.6	42	くつろぐ	動	16	2.9
42	おもちゃ	名	16	3.6	42	もの	名	16	2.9
42	チワワ	名	16	3.6	45	いつも	副	15	2.8
42	名前	名	16	3.6	45	顔	名	15	2.8
42	まるで	副	16	3.6	45	元気	形動	15	2.8
42	目	名	16	3.6	45	目	名	15	2.8
49	色	名	15	3.4	49	家	名	14	2.6

イヌ

順位	語	品詞	度数	比率
49	体	名	15	3.4
49	食べる	動	15	3.4
49	トイ・ブードル	名	15	3.4
49	ミックス	名	15	3.4
49	ミニチュア・ダックスフンド	名	15	3.4
55	これ	名	14	3.2
56	あげる	動〔補〕	13	2.9
56	気に入る	動	13	2.9
56	気持ち	名	13	2.9
56	チャンプー	名	13	2.9
56	姿	名	13	2.9
56	使う	動	13	2.9
56	連れる	動	13	2.9
56	ところ	名	13	2.9
64	ドッグラン	名	12	2.7
64	ともに	副	12	2.7
64	ない	形	12	2.7
64	仲よく	副	12	2.7
68	上げる	動	11	2.5
68	家	名	11	2.5
68	行く	動	11	2.5
68	癒す	動	11	2.5
68	顔	名	11	2.5
68	ずっと	副	11	2.5
68	乗せる	動	11	2.5
68	入る	動	11	2.5
76	感じる	動	10	2.3

ネコ

順位	語	品詞	度数	比率
49	お気に入り	名	14	2.6
49	体	名	14	2.6
49	スコティッシュフォールド	名	14	2.6
49	生後	名	14	2.6
49	作る	動	14	2.6
49	できる	動	14	2.6
49	出る	動	14	2.6
49	入れる	動	14	2.6
49	よい	形	14	2.6
49	よく	副	14	2.6
60	いく	動〔補〕	13	2.4
60	一緒	名	13	2.4
60	子猫	名	13	2.4
60	自分	名	13	2.4
60	大好き	形動	13	2.4
60	ところ	名	13	2.4
60	始める	動〔補〕	13	2.4
60	部屋	名	13	2.4
68	飼う	動	12	2.2
68	かける	動	12	2.2
68	体勢	名	12	2.2
68	ため	名	12	2.2
68	トイレ	名	12	2.2
68	撮る	動	12	2.2
68	乗せる	動	12	2.2
68	乗る	動	12	2.2
68	場所	名	12	2.2

イヌ					ネコ				
順位	語	品詞	度数	比率	順位	語	品詞	度数	比率
76	元気	形動	10	2.3	68	フード	名	12	2.2
76	成犬	名	10	2.3	78	あと	名	11	2.0
76	成長する	動	10	2.3	78	2匹	名	11	2.0
76	つける	動	10	2.3	78	人	名	11	2.0
76	できる	動	10	2.3	78	前足	名	11	2.0
76	眠る	動	10	2.3	82	足	名	10	1.8
76	見える	動	10	2.3	82	ある	動〔補〕	10	1.8
76	見せる	動	10	2.3	82	家族	名	10	1.8
85	うれしい	形	9	2.0	82	これ	名	10	1.8
85	よさそう	形動	9	2.0	82	たいへん	形動	10	1.8
85	来る	動	9	2.0	87	あげる	動〔補〕	9	1.7
85	仲よし	名	9	2.0	87	頭	名	9	1.7
85	プリン	名〔犬名〕	9	2.0	87	大きい	形	9	1.7
85	迎える	動	9	2.0	87	気持ち	名	9	1.7
91	歩く	動	8	1.8	87	好き	形動	9	1.7
91	行う	動	8	1.8	87	それ	名	9	1.7
91	お散歩	名	8	1.8	87	付く	動	9	1.7
91	おてんば	形動	8	1.8	87	夏	名	9	1.7
91	かわいらしい形	形	8	1.8	87	名づける	動	9	1.7
91	写真	名	8	1.8	87	何	名	9	1.7
91	ディスク	名	8	1.8	87	パチリ	副	9	1.7
91	名づける	動	8	1.8	87	ふしぎ	形動	9	1.7
91	初めて	副	8	1.8	87	見守る	動	9	1.7
91	走る	動	8	1.8	100	温かい	形	8	1.5
91	人	名	8	1.8	100	癒す	動	8	1.5
91	また	接	8	1.8	100	おなか	名	8	1.5
91	もらう	動	8	1.8	100	思わず	副	8	1.5

イヌ

順位	語	品詞	度数	比率
91	よい	形	8	1.8
105	イタズラ	名	7	1.6
105	笑顔	名	7	1.6
105	おとなしい	形	7	1.6
105	変わる	動	7	1.6
105	ごはん	名	7	1.6
105	性格	名	7	1.6
105	存在	名	7	1.6
105	たくさん	名	7	1.6
105	楽しむ	動	7	1.6
105	小さい	形	7	1.6
105	違う	動	7	1.6
105	毎日	名	7	1.6
105	寄り添う	動	7	1.6
118	あい	名〔犬名〕	6	1.4
118	アイク	名〔犬名〕	6	1.4
118	遊び	名	6	1.4
118	ある	連	6	1.4
118	お気に入り	名	6	1.4
118	思わず	副	6	1.4
118	かける	動	6	1.4
118	コットン	名〔犬名〕	6	1.4
118	させる	動	6	1.4
118	仕事	名	6	1.4
118	自宅	名	6	1.4
118	車	名	6	1.4
118	好き	形動	6	1.4

ネコ

順位	語	品詞	度数	比率
100	カゴ	名	8	1.5
100	カメラ	名	8	1.5
100	感じる	動	8	1.5
100	興味	名	8	1.5
100	クセ	名	8	1.5
100	時間	名	8	1.5
100	そして	接	8	1.5
100	ドア	名	8	1.5
100	鳴く	動	8	1.5
100	猫タワー	名	8	1.5
100	入り込む	動	8	1.5
100	毎日	名	8	1.5
100	見える	動	8	1.5
117	一番	名	7	1.3
117	ウニ	名〔亀名〕	7	1.3
117	落ち着く	動	7	1.3
117	おもちゃ	名	7	1.3
117	気に入る	動	7	1.3
117	来る	動	7	1.3
117	心	名	7	1.3
117	撮影する	動	7	1.3
117	幸せ	形動	7	1.3
117	自宅	名	7	1.3
117	姿	名	7	1.3
117	ソファ	名	7	1.3
117	使う	動	7	1.3
117	出会う	動	7	1.3

イヌ					ネコ				
順位	語	品詞	度数	比率	順位	語	品詞	度数	比率
118	せい	名	6	1.4	117	どこ	名	7	1.3
118	成長	名	6	1.4	117	何とも	副	7	1.3
118	大の	連	6	1.4	117	ぬいぐるみ	名	7	1.3
118	楽しい	形	6	1.4	117	覗く	動	7	1.3
118	でも	接	6	1.4	117	はな	名〔猫名〕	7	1.3
118	始める	動	6	1.4	117	普段	名	7	1.3
118	ぴったり	副	6	1.4	117	また	接	7	1.3
118	周り	名	6	1.4	117	まま	名	7	1.3
118	毛布	名	6	1.4	117	見せる	動	7	1.3
118	やる	動	6	1.4	117	見つける	動	7	1.3
118	よく	副	6	1.4	117	見つめる	動	7	1.3
118	私たち	名	6	1.4	117	もちろん	副	7	1.3
143	あご	名	5	1.1	143	上がる	動	6	1.1
143	ウェルシュ・コー ギー・ペンプローク	名	5	1.1	143	穴	名	6	1.1
143	生まれる	動	5	1.1	143	いっぱい	副	6	1.1
143	大きい	形	5	1.1	143	以来	名	6	1.1
143	音	名	5	1.1	143	驚く	動	6	1.1
143	覚える	動	5	1.1	143	おもしろい	形	6	1.1
143	気	名	5	1.1	143	毛	名	6	1.1
143	気分	名	5	1.1	143	声	名	6	1.1
143	きれい	形動	5	1.1	143	ここ	名	6	1.1
143	口	名	5	1.1	143	こちら	名	6	1.1
143	サイズ	名	5	1.1	143	示す	動	6	1.1
143	さっそく	副	5	1.1	143	新聞紙	名	6	1.1
143	しぐさ	名	5	1.1	143	過ごす	動	6	1.1
143	心配する	動	5	1.1	143	ずっと	副	6	1.1
143	生後	名	5	1.1	143	出す	動	6	1.1

イヌ

順位	語	品詞	度数	比率
143	たび	名	5	1.1
143	だんだん	副	5	1.1
143	取る	動	5	1.1
143	眺める	動	5	1.1
143	ぬいぐるみ	名	5	1.1
143	乗る	動	5	1.1
143	走り回る	動	5	1.1
143	びっくり	副	5	1.1
143	雰囲気	名	5	1.1
143	ベッド	名	5	1.1
143	ペットショップ	名	5	1.1
143	ボメラニアン	名	5	1.1
143	本	名	5	1.1
143	待つ	動	5	1.1
143	マルチーズ	名	5	1.1
143	もと	名	5	1.1
143	ヨークシャー・テリア	名	5	1.1
143	喜ぶ	動	5	1.1
143	ライチ	名〔犬名〕	5	1.1
143	ランドセル	名	5	1.1
143	リオン	名〔犬名〕	5	1.1

ネコ

順位	語	品詞	度数	比率
143	近づく	動	6	1.1
143	テレビ	名	6	1.1
143	ところが	接	6	1.1
143	猫草	名	6	1.1
143	表情	名	6	1.1
143	ほほえましい	形	6	1.1
143	本当に	副	6	1.1
143	持つ	動	6	1.1
143	やってくる	動	6	1.1
143	よさそう	形動	6	1.1
143	わかる	動	6	1.1

図書館サービスにおけるコミュニケーション

一児童を対象者とした場合—

設 樂 馨

1. 目的

本稿では、司書課程科目「児童サービス論」¹の履修学生に対する調査から、児童を対象者とした場合のサービスについて考察し、今日の司書を目指す女子大学生が理想とする児童とのコミュニケーションを扱う。司書が児童との間で構築するコミュニケーションにどのような手法を取るのか探してみたい。合わせて、読書の意義についても考察する。

背景として本学では毎年、約150名から200名の学生が司書課程を履修する。司書課程のなかでも児童サービス論は、2009年2月に「これからの図書館の在り方検討協力者会議」により「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目」として1単位から2単位に引き上げられた経緯があり、近年、重要性を増しているものである。

児童サービスでは、本を介した児童と司書のコミュニケーションが成立しなくてはならない。ここで言うコミュニケーションとは、図1に挙げるように、図書館で司書（サービスを提供する者）が、図書についての情報を求める児童や児童の親、教師など（サービ



図 1

¹ 文部科学省によれば「司書は都道府県や市町村の公共図書館等で図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、読書案内などを行う専門的職員です。」とある。主な職務内容の一つとして「図書館資料についてのレファレンスサービス、読書案内」がある。

また、児童サービス論の趣旨は「児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う」（これからの図書館の在り方検討協力者会議（2009）より）ものである。

スを受ける者）に対してはかるものとなる。実際は、例えば公共図書館であれば、多くの利用者のなかにあつて児童やその親は、ごく一部の利用者に過ぎない（児童サービスのみのサービスではない）。学校図書室など教育現場であれば、児童のクラス担任や各科目担当教員との連携が欠かせない（司書に読書指導が一任されるのではない）。児童サービスには種々の制限が伴い、コミュニケーションにも影響しよう。しかし学生であれば、与えられた知識や経験的知識に基づいた、理想形としてのサービスを回答する。よつて、学習事項を応用し、実践的なサービス論を展開するために、まずは現状の履修学生が理想とするサービスにおいて、そのコミュニケーション手法の特徴を整理しておきたいと考えた。

2. 調査方法

2.1. 調査概要

サービスの場面として、コミュニケーションを分析対象とするには、具体的な場面を設定しなくてはならない。そこで、一冊の本「アメだまをたべたライオン」（作 今江祥智）を児童にすすめる場面を設定し、どのようにすすめるかを尋ねた。回答は、記述式で200字から400字程度の原稿用紙を配布して、各自に書いてもらった。

調査に協力してもらったのは、47名の女子大学生である。彼女たちにまずは本（挿絵のある愛蔵版『ぼけつとにいっぱい』、全文は本稿末尾に掲載）をコピーしたものを配布し、十分な時間を取つて各自で読んでもらった。ここで回答用紙の前半に記入を求めた。次に、登場人物を挙げてもらい、物語のあらすじを確認し、説明を補った。これは、本（書いてあること）から読み取れる内容を確認するとともに、回答者自身が読解した内容と児童が読解する内容が必ずしも一致しないことに気付かせるねらいがあつたためである。児童サービスに従事する司書であれば、発達に応じた読書の意義について習得しておかねばならない。この点を確認したあと、もう一度時間を取つて回答用紙の後半に記入を求めた。回答者一人につき都合、2回の回答を得た。

2.2. 児童期の読書の意義

2 回目の回答前の説明で確認したことは、読書の意義を踏まえた物語の内容である。だが、いつ、どこで、どうしたのかという基本的なあらすじを確認するとともに、児童にとっての読書の意義に関する知識を振り返るための説明を加えた。ここで読書の意義について、先行研究を引きながら補足する。

発達過程で読書の意義が変化していくことについて、先行研究として秋田(1997)に詳しい。なお、秋田の結論を参考に、本調査の回答者の幼少期の読書傾向に関し、稿者が設楽・平井(2013. 3 予定)に著した。

ここで本稿の分析に関わることとして、児童期の読書の意義についてまとめておく。秋田(1997)が示す「読書の発達過程モデル」では、乳幼児期初期から青年期までを対象としている。児童とは、就学後から思春期を含む。この児童期は、文字の習得を経てようやく文字の文化へ足を踏み入れたところだとされる。そして、読書の意義として、ほめられるなど外生的意義から、空想・感動、知識・思考といった内生的意義への移行期であると言う。

設楽・平井(2013. 3 予定)では、回答者の多くが幼稚園の頃、絵本に親しみ、就学後に童話や物語へ志向が変化していることを確かめた。絵本は、色使いや登場人物の挿絵など、ビジュアルによって楽しむことを好み、一方、小学生になって親しむ物語は文章によって著された登場人物の性格や行動力、筋の展開に魅力を感じていた。つまり、児童期には「話の筋の展開への注目」へと図書の志向が変化する。

そして今回指定した図書「アメだまをたべたライオン」は、小学校低学年向けの童話で、挿絵は数ページあるものの絵本という形態は取っていない。登場人物はライオンや小ウサギなどの動物で、サバンナという日本と異なる風景を想像しながら、主人公のライオンが小ウサギに腹を立てたり感謝したり、それまでの自分と変わってしまったりする経緯を追っていくことになる。文量は比較的、短くて、内容は空想的、読後感はほのぼのするような話である。児童にとっての本書は、空想や感動を楽しむ図書だと言えるだろう。

2.3. 調査における視点

回答方法に関し、書き手が司書になったつもり、という仮想視点を採用している。仮想視点について、茂呂雄二（1992）によれば「発話のアドレス性が具現化されること」が指摘され、「利用可能な文化的資源も特定される」と考えられている。ここで「文化的資源」とは、「特定の書き手にそなわった発話の型とジャンル」であり、「そのジャンルを用意するための道具の使用方法や道具相互の関連についての知識も含める」ものとされる。つまり、コミュニケーション場面や目的が、仮想とはいえ書き手に引き受けられると言う。このため、回答には書き手が児童に対して試みるコミュニケーションの理想の姿が反映されるものと考えた。

2.4. 集計

回答に目を通してみると、2回のうち1回のみの回答や、2回の回答なのか1回の回答を長く記述しているのか、判別しにくい回答があった。これは、回答用紙として1枚を半分に割って罫線による区切りを施すのみであったために回答方法を十分、理解しなかった者がいたことが考えられる。調査手法の不手際であった²。

そこで集計に際しては、1回限りの回答や、1回か2回か判別しにくい（1回目との切れ目が定かでない）回答については、1回分として扱うこととした。ただし、2回分の回答であることがはっきりしている場合は、2回目の回答を優先して分析対象とした。

3. コミュニケーションの手法

児童に対してどのように接するのか、コミュニケーションの手法について3点に着目して取り出した。

第一は、児童が打ち解けるようなくだけた表現を用い、親密な関係を築こうとする態度である。ここから、女子大学生が年少者をどのような聞き手と

² これは当初、1回目と2回目の回答で比較する分析も予定していたためである。

見ているのか、どのような距離感を持っているのかなどが見出せる。ほかに、本をすすめるために児童へどのようなメッセージを伝えようとしているのか、学生が読解した理解によって異なる。理解の仕方を一般的理解と抽象的理解に区別し、それぞれ第二、第三で検討し、伝える内容を調整、あるいは選択する手法を検討する。

3. 1. ウチへ引き込む

1 人の（1 回の）回答につき、全体あるいは部分的に、聞き手³に語りかけるような、話し言葉をそのまま書いたようなスタイルを取ることがある。表現形式としては、文末の終助詞や語彙に特徴が現れる。以下に具体例を示す（下線は稿者による）。

回答抜粋その 1

- (1) 「アメだまをたべたライオン」おもしろいよ。このお話は動物がいろいろ出てくるんだけど、何がでてくと思う？ライオン以外にも、小ウサギやヒョウが出てくるよ。それで、タイトルの通り、ライオンはアメだまを食べるんだけど、どうなったと思う？なんと、「ニィ」としか言えなくなったんだ。普通ライオンってどう鳴く？そう、「ガオー」とかだよね。「ニィ」しか言えなくなったらライオンはどう思う？多分悲しいね。さあライオンはこれからどうなるのか、続きは読んでからの楽しみ。
- (2) ライオンというのは、どんなイメージがあるかな？（中略）この本は、誰とだって、お友達になれる可能性はあるんだよ、ということを教えてくれるんだよ。ライオンさんの気もちが、少しずつ変化していく様子に注目して、読んでみようね。
- (3) （前略）ライオンの気持ちはどう変わっていったのかな。小ウサギの気持ちはどうだったのかな、自分と合わなさそうだと思って話さない

³ 回答者がメッセージを受け取る相手として児童を意識している場合、回答のまま書面で伝えるのではないため、「読み手」ではなく「聞き手」と称する。

お友達が学校にいないかな。明日話しかけてみたくなるよ。

- (4) まず物語の中に入り込もう。(中略) 物語の世界に入ると色々なことが知りたくなる。だから読書はおもしろいんだ。

回答抜粋の終助詞で(1)(2)(3)に下線を引いた「よ」「ね」「よね」「かな」は、聞き手に直接働きかけて情報提供したり、共感を示したり疑問を提示する。疑問提示は、(1)(2)の文末記号として疑問符「？」も見られた。

勧誘する表現も話しことばになることが多い。(1)「続きは読んでからのお楽しみ」(2)「読んでみようね」(4)「入り込もう」というように、聞き手に直接働きかける表現によって勧誘する。

説明の「のだ」を含む文末も、聞き手に訴えかける表現として注目される。(1)(2)(4)の「んだ」や接続助詞に連なる(1)「んだけど」といった箇所である。

語彙では(2)(3)「お友達」や(2)「ライオンさん」のような、いわゆる育児語(幼児語)に特徴的な接辞付加によって、年少の聞き手を意識した形式になっているものが数例、ある。

これら、聞き手目当てに直接呼びかけたり問いかけたりする形式、大人相手なら使わないような接辞付加の特徴、そして全体的にくだけた調子を含む表現は、家庭における親や小学校の先生など、年少者の周囲にいる大人が子どもに語りかけるような表現に合わせ、話し手が聞き手の年齢に配慮して用いた表現であると考えられる。

本をすすめるというサービス上の目標は、児童が司書の言葉を信用し、聞き入れてもらわなければ達成できない。そこで聞き手に対し、話し手が親近感のある親しみやすい雰囲気を出すことで、ヨソの知らない専門家が一方的に語るのではない、児童にとって身近なウチ側の話し手であることを強調し、親疎関係において生じる距離を調整して親しい関係性を作りだそうとするのだろう。

3. 2. 物語の一般的理解

前節では主に表現形式から、話し手と聞き手の距離を調整する意識を採っ

た。次に、伝える内容を調整したり選択したりする手法を見るため、まずは学生がどのように物語を理解したのか、本「アメだまをたべたライオン」に描かれた場面を次の四つに区分して示す。

- 1) ライオンがアメだまを食べる（導入）
- 2) ライオンが弱くなる（展開1）
- 3) ライオンが小ウサギに助けられる（展開2）
- 4) ライオンと小ウサギが仲良くなる（結末）

導入となる「ライオンがアメだまを食べる」ところや、アメだまを食べた結果「ライオンが弱くなる」という部分を紹介し、物語に興味を持たせようとするタイプの回答（27名）がある。物語の筋を追って、順に読み解く、その物語内容そのものが楽しいと、すすめるものである。

これと異なるものとして、全体を示すタイプの回答（17名）がある（その他、3名が存在する）。全体を示すタイプは次節で見ることとする。

物語の主題を一般的に理解して、その一部分を紹介するタイプの典型例は、前述の回答抜粋(1)である。図2の円グラフに、一般的理解タイプの27回答に見られた各場面の引用度数を示す。

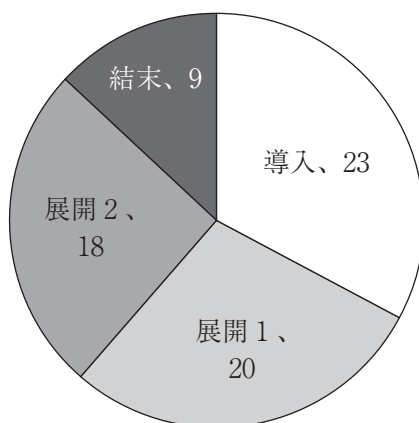


図2

さわりを紹介して、聞き手に「本の内容は、このあとの展開は、どうなっているのだろう」という好奇心を生じさせ、「続きを知りたい」と思わせる、つまり物語の筋に対する注意を喚起して図書を読む欲求を増幅させて児童を読書へと誘う。このような手法をとるために、回答の多くが導入に触れる(27名中23名)。そして、展開1、展開2と徐々に引用度数が落ち、結末「ライオンと小ウサギが仲良くなる」を紹介する回答は少ない(27名中9名)。もし予めすべてを伝えてしまえば、知る楽しみを奪ってしまうだろう。そうではなく、自ら読むという行為を経て、その結果、知ることを楽しむための配慮をする回答が多かったのである。実際の回答として、(5)(6)によって補足する。

回答抜粋その2

- (5) 主人公のライオンのルルが、空から落ちてきたアメだまを食べてしまっ
て、吠えられなくなってしまう。そんな時ウサギと出会ったルル
はどうなっていくのか。
ストーリーを全て話してしまうといけないので、登場人物を説明する
くらいにしておくと思います。
- (6) (前略) 子どもに大まかな流れと疑問や興味をもってもらえるような
事(小ウサギはどうなってしまうのかなど)を話したいと思います。
続きは web で! のように。

(5)(6)で疑問の投げかけは、破線部の通りである。このように物語の一般的理解を部分的に伝える場合、(5)「全て」を話すのではなく、(6)「疑問や興味をもってもらえるよう」に話し手が聞き手の情報量を調整するのである。

3.3. 物語の抽象的理解

これらに対し、全体を示すタイプは、前述の(2)(3)のように物語の結末やそこから読み取れる主旨を踏まえ、偏見を持たずに他者を理解しよう、友だちを増やそうといった倫理観や道徳心を推奨する回答である。主題を抽象的に

理解するタイプと言えよう。ほかの具体例も見てみよう。

回答抜粋その3

- (7) ルルというライオンが不思議なアメだまを食べたことにより、優しいライオンに変わっていくというお話です。アメだまを食べたせいでルルは『ニィ…』としかななくなり、ショックをうけます。でも、いつもならすぐに食べてしまう小ウサギに優しくされて、ルルの心にも優しさが目ばえます。ルルの声が戻ってからも二ひきは仲よく暮らします。優しさをもって接することで、相手と本当に仲良くなれることを学んでほしいです。
- (8) アメだまを食べて声が出なくなったライオンと小ウサギの話です。(中略) 純真な優しい気持ちが大切ということを教えてくれる本です。

(7)(8)の破線部には、優しい気持ちを忘れずに相手を理解する大切さが述べられており、こうした絆の結び方を(7)「学んでほしい」、(本が)(8)「教えてくれる」と指摘する。この「学(び)」や「教え」という言葉が示すように、読書は学習や教育と関係が深い。物語を抽象的に理解することで得られた知恵(本調査ではもっと限定的に、倫理観や道徳心と言っても良いだろう)を、生活態度や学習態度の発展的形成へ応用させようとする。物語に込められたメッセージを受け止めたうえで、児童の心や学力の発達を促そうとするわけであり、換言すれば児童の発達に配慮して読書活動をすすめているのである。

また読書活動のなかで、図書を抽象的に理解して応用する一環として、抽象的理解の共有を重視することがある。具体例として(9)(10)(11)を挙げる。

回答抜粋その4

- (9) 先生の話聞くまでは⁴、教えてあげる。や解説する。といった、こちらからの行動でしたが、聞いた時に大事だと思ったのは、子供

⁴ 「先生の話聞く」における「話」は、「2.1. 調査概要」および「2.2. 児童期の読書の意義」に詳述。

と一緒に考えてみる。ということです。問いかけて、答えやその時の情景を頭に浮かばせてあげるとより、話の内容に入り込んで行くのではないかと思います。子供にとって大切なのは、一方的にこちらからするのではなく、参加⁵させて楽しく本に興味を持てるように勧めていくべきなんだと思いました。

- (10) (前略) またライオンの、「これまでにない気持ち」とはどのような気持ちなのか。それらについて話し合うと楽しいです。
- (11) (前略) 私は人（動物）を見かけで判断してはいけない、ということ伝えようとしているのかなと受け取った。なので、この作品を読んだ後、「みんなもこのライオンのように…」と具体例をあげて、作品を読むだけにとどめず伝えてたい。

(9)「参加させて楽しく本に興味を持てる」とは、一方的に自分の解釈を押しつけるのではなく、楽しむ態度をもって児童が主体的に読書活動に取り組むことを重視している。

(10)「話し合う」ことは、読後の楽しみとしてすすめられている。

(11)「読むだけにとどめず伝えて（いき）たい」（脱字の補いは稿者による）は、読書を契機にしながらも、自分の体験やほかの図書から得た情報など当該の物語以外を資源として活用して、さらなる発見や気づきを促したいという願いが読み取れる。

これらの回答から読み取れる読書活動は、一人で黙読して最後のページまでめくっていけば終わる、というものではない。抽象的理解によって図書から得た刺激を元に考え、その考えを仲間と共有するのであり、読書活動の共有化によって楽しみが増える、ということを前提としている。だからこそ、読書活動の共有化による楽しみを知ってほしい、という思いが訴えられているのである。

このような思いは、司書の役割をどのように把握しているのか、を浮き彫

⁵ ここで言う「参加」とは、一人で読む行為ではなく、読み聞かせなどグループで行う読書活動に加わることであろう。

りにする。司書は、児童へ物理的に図書を手渡すだけでない。児童が読書の意義や効果、娯楽性を実感するよう、司書は読書活動を涵養する指導者である、という自覚から生じるのだろう。これは、司書として読書活動を支援していくうえで、児童の発達や読書活動の意義に踏み込んで考慮していることがうかがえる。

4. まとめ

以上の回答抜粋から分析したコミュニケーションの手法をまとめ、学生が想定している、児童サービスにおける読書の意義を整理する。

4.1. オーディエンス・デザイン

児童をウチへ引き込む態度は、話し手が親近感を示して聞き手との関係性を親しいもの、打ち解けたものとするためのものであった。相手に話を聞いてもらうには、聞き手が誰であるのか、どのような人物であるのかを明確に意識して、聞き手に合わせた表現を用いて相手との距離を構築せねばならない。そのため、本稿のコミュニケーション場面では、児童という幼少の年代に合わせ、平易で親しみやすい表現を用いたオーディエンス・デザイン（聞き手に応じた言語スタイルの調整）が行われていることを確認した。

4.2. メッセージの核としての、一般的理解と抽象的理解

物語を注意喚起の素材として読書活動を促すには、話し手が聞き手の情報量を調整する様子が見られた。物語の一般的理解を紹介するタイプであり、その場合は冒頭部の情報を扱うことが多い。結末に向かうにつれ、引用度数が減少していくことを確認し、かつ、こういった情報量の調整を明記する回答も見られた。

回答者の三分の一程度は、物語そのものを注意喚起の素材とする読書活動ではなく、物語の抽象的理解に至って読書の意義を多様化しようというものであった。これは、児童の発達に応じた読書活動の意義を考慮するものであり、個別の図書を推薦するだけが司書の役割だと認識しているのではないこ

とをうかがわせた。つまり、児童の読書活動を支援する者として、ここで推薦する一冊「アメだまをたべたライオン」に終わらず、その後も楽しみながら読書活動を持続させられるように、司書がより幅広い読書活動を涵養する役割を担う指導者として意識しているのだと考察した。

4.3. 推薦手法別にみる読書の意義

本稿の調査では、児童サービスにおけるコミュニケーションを取り上げた。改めて、そのコミュニケーションの目的を振り返ってみると、読書活動の涵養ということがある。これは、当該書に特化して物語の一般的理解にとどまるものと、抽象的理解によって児童の発達を考慮したものがあることを確認した。

ここではさらに踏み込んで、それぞれの手法が伝える読書の意義について触れておきたい。

まず一般的理解における読書活動の意義は、聞き手が「アメだまをたべたライオン」を楽しく読み進めることであり、その楽しみは個人のなかで空想や感動することにつながっていくものであった。

一方、抽象的理解における読書活動の意義は、物語から普遍的事実を抽出して学ぶ、あるいは、読むことや読んだ後に共に考えることなどを含んでいた。このように知識・思考を楽しむ読書は、内容を抽象化するため、「アメだまをたべたライオン」以外の図書であっても、図書を契機とする内省や交流を促し、児童にとっての読書の意義を多様化するものと考えられる。

4.4. おわりに

読書の意義について、空想や感動型と、知識・思考型に分けて結論づけたが、この違いによってどちらがより適切か、といったことは仮想視点をを用いた本調査で論じることができない。そもそも、両者のコミュニケーション手法の違いは、児童の置かれた環境や発達段階に応じて使い分けるものであって、本調査では児童にそこまでの具現性を欠く。よって司書としてより適切なサービスかどうか、という優劣は存在しない。これを含めた調査研究とし

ては、どのような支援が必要な児童（サービス対象者）かを厳密に分析・規定して、仮想視点ではなく実践場面においての研究への発展を目指したい。

参考文献

秋田喜代美（1997）『読書の発達過程―読書に関わる認知的要因・社会的要因の心理学的検討―』風間書房

今江祥智（1968）『ぼけつとにいっぱい』『アメだまをたべたライオン』理論社

これからの図書館の在り方検討協力者会議（2009）報告書

設楽馨・平井尊士（2013）「幼少期の読書とその効果―1990年代生まれの女子大学生の場合―」『武庫川女子大学紀要(人文・社会科学編)第六〇巻』武庫川女子大学

茂呂雄二（1992）「仮想視点からの作文」国立国語研究所報告104研究報告集 13（筆者は3名、若林健一・茂呂雄二・佐藤至英の順であるが、本稿では引用部分の担当者名を挙げた）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/index.htm

（Cited; 2012. 08. 31）文部科学省「司書について」

参考資料「アメだまをたべたライオン」

アフリカのみどりの森^{もり}のあさです。ライオンのルルは、目をさますと、おもいきり口をひらいてあくびをしました。そのとたん、ルルのまえに、なにか^{ひか}光るものが、空^{そら}からボタンとおっこちてきました。アワワワと、あくびをいそいですませると、ルルは、それをじっとみつめました。それは、ルルがみたこともないアメだまでした。きれいにすきとおった、きいろのちいさなアメだまです。ルルはちょっとのあいだ、じっとみていました。すると、アメだまは、くにやりとくずれてしまったのです。いきものだな、とおもうと、くいしんぼうのルルは、ひとくちにペロリと、それをのみこんでしまいました。

ルルは、あさのかりにでかけました。

十ぶんもいかないうちに、くらむらにサルをみつけたルルは、うおーっと、ほえようとしました。そのひとほえで、いつも、どんなどうぶつでも、ふるえあがって、にげられなくなってしまうのです。とろこが、ルルののどからでたこえは、なんと、ニィ……なのです。まるで、子ネコです。ルルは、びっくりぎょうてん、もういちど、あごもはずれそうに、うおうとやってみました。が、のどからは、やはりニィ……、というおとしかでないのです。

ルルは、もうすっかりあわててしまって、のどをおさえたり、とびあがったりのおおさわぎです。でも、おなじです。

いつのまにか、うしろにきていたヒヨウのべべが、フフフと、わらっていました。

—ライオンって、やはりネコのなかまですnee。ルルさん。

ルルはおこって、わお、とどなりつけましたが、きこえたのは、やはりニィ……なのです。

ルルはぺしゃんこに、しょげてしまって、すごすごと、あなにもどりました。きっと、あのきいろい^{たま}玉のせいだと、はらがたったけれども、これでは、そとへもでられません。—こえはずっとそのまま、^{みつ か かん}三日間、ルルは、じっとあなぐらしです。いまはもう、おなかがすいて、おきるのも、めんどうでした。目もかすんでしまい、あごをまえあしにのせると、ほんやりしてしまいました。

ですから、ウサギがやってきたときも、ぼかんと、ながめているだけでした。小ウサギのほうでも、その日がはじめての^{がいしゅつ}外出なので、ライオンとはしらずに、ちかよってきました。こんにちは、とあいさつをすると、おじさんずいぶんおとしよりね、と、ひげをひっぱりました。ルルはかっとなり、おもわず、うわっとほえましたが、でたこえは、ニィ……。小ウサギは、はなさきまできて、目をパチクリさせて、

—おじさん、かなしいんだね。

—うん。おなかがすいているんでね。

小ウサギは、ピョンと、どこかへかけだしていきました。

そして五ぶんもするとどってきました。^て手にカエルをもっています。

—うまいよ。これ。

小ウサギは、すましていいました。

ルルは、たべてみました。

—おいしいね。

ルルは、おもわずいいました。とにかく、おなかがすききっていたのですから。それはルルにとって、はじめてのあじでした。

小ウサギはそれから毎日、三びきずつ、カエルをつかまえてきてくれました。それから五日目に、ルルは、やっともとのこえをとりもどしました。

まよなか、月をながめながら、ルルはしばらくぶりに、おもいきり、ほえました。

あくるあさ、小ウサギがおなじようにやってくると、ルルは、これまでにないやさしい目で小ウサギに、

—おじさんはライオンなんだよ。

といいました。

けれども小ウサギは、ちっともおどろかず、

—だって、ライオンなら、カエルなんかたべないもの……。

うう、とルルはうなり、それから、この五日のあいだは、カエルだけでいきていたのをおもいだしました。それに、気がつくと、目のまえにウサギがいるのに、たべたいとおもわなくなっているのです。ルルは、じっとかながえこみました。

アフリカのみどりの森のおはなしです。そこには、ウサギとなかよしのライオンがいて、カエルしかたべません。そしてそのライオンは、あついあつい日には、ウサギを頭にのっけて、池をとってもじょうずにおよぎます。カエルばかりたべてるせいかもしれないな、と、ルルは、そんなとき、およぎながらおもいます。

2012年12月20日 印刷
2012年12月25日 発行

編 集 者

武庫川女子大学
言語文化研究所

発 行 者

武庫川女子大学
西宮市池開町6番46号

(非 売 品)

印 刷 所

大和出版印刷株式会社
神戸市東灘区向洋町東2-7-2